

石巻・久之浜・田村

三地域横断座談会

報告記録集

3.11

以降

〈三地域横断座談会〉

東北の文化を考える

なぜその地に居続けたいのだろう？

宮城県

1. 石巻編

2014.9/26 (金)

ようこそ! 浜風商店街
久之浜町商工会

福島県いわき市久之浜町

2. 久之浜編

2014.10/17 (金)

【日時】 18:00 ~ 20:00

(開場は 17:45 ~)

- 1. 石巻…… 2014年 9月 26日 (金)
- 2. 久之浜…… 2014年 10月 17日 (金)
- 3. 田村…… 2014年 11月 28日 (金)

福島県田村市

3. 田村編

2014.11/28 (金)

GOCO

【主催】 一般社団法人 日本建築美術工芸協会 調査研究委員会情報文化部会

私達は「3.11以降の東北の文化を考える」といった視点より被災地の方を主なパネラーとして三回の座談会を行いました。テーマを「文化」と限った事により様々な背景を背負った方の参加を得ることができ、3.11以降の人々の心の流れの変化を照らし出せたように思います。

かつて生業をしていた地に 原発 津波 地震の三要素が交差し 地域の被災の状況は様々で一言では語れませんでした。しかし被災の分母として確かな事は、この地域から多くの方々が去り、図らずも人々が大きく流動したということです。これまでも戦争や 飢饉 大災害 経済構造のうねりをバネとして日本は変化してきました。今東北は流動しています。この国は次のステージに 向かいつつあるように見えます。身心を支える時代の太鼓の音が深き地の底から聞こえてきます。人々は街や村の命を繋ぐために、おのれの事として明日への“こころみ”を始めました。

国は目立たぬよう語り出しました　—危機感を持って—

20〜30年後にはこの国の人口は1億人を切りその後は釣糸落とし。しかも東京の出生率は1.09人 これが3代続くと100人が12人になります。これは国をつなぐエネルギーを灯すためにも、現在の都市文明、文化の有り様を根底から変えなくては成り立たないというメッセージなのではないでしょうか。

経済も 文化も 個の命も 時を輪切りにし止めて視ることは出来ません。すべては流動しています。そこにしか現在は見えてきません。大震災から4年 今1万数千年継続した世界最古の文化を営々と築いてきた東北から、この国の都市の風景を示唆するテキストが用意されつつあるように見えます。

二年前の東北への旅をまとめた小冊子の始めに「3.11を超えて豊かな東北を創造するためには、東北の文化に根ざした新たな思想が醸成され、そこから街や都市の風景 産業の育成がスタートしなければならぬと思います」と記しました。今ようやく車座になり寄合いの時が来ました。

情報文化委員会
部会長 坂上直哉

絆の駅・石巻ニューゼ内の展示内容／
震災前、石ノ森漫画館正出入口に設置されていたキャラクター「シージェッター海斗」。津波により手足が損傷した。2011年3月11日の被災状況を風化させない、という市民の強い意思を後世に語りかけている。



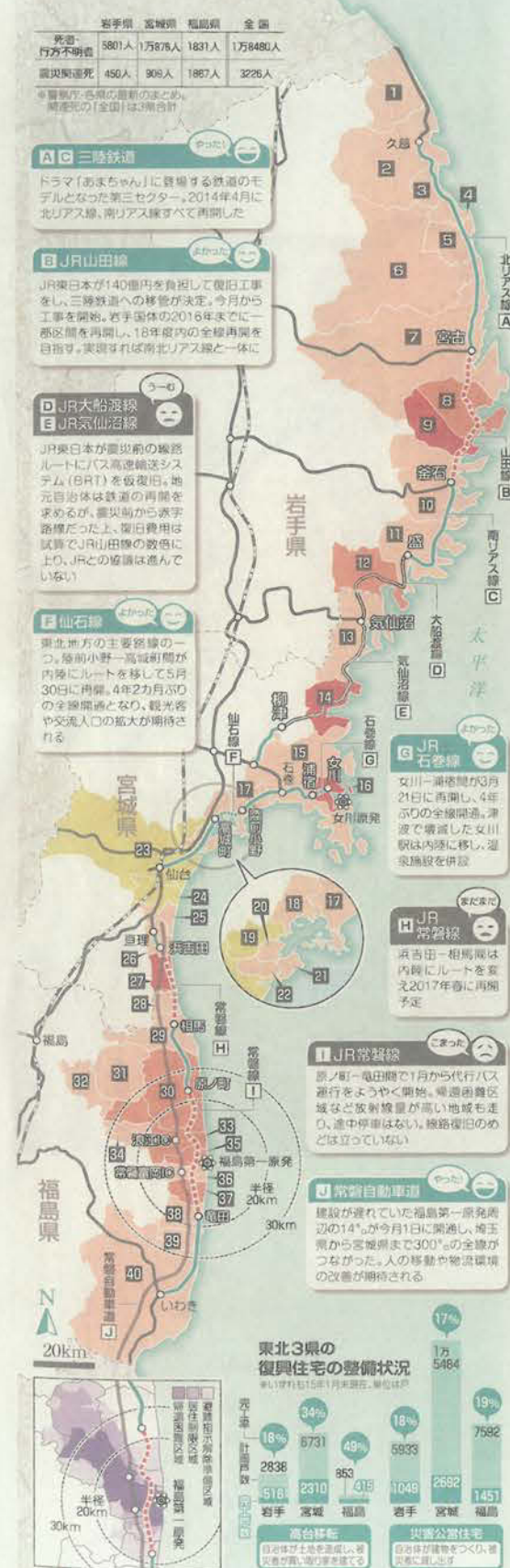
(一社)日本建築美術工芸協会は故芦原義信氏が創立した団体で建築や美術等環境総合芸術に関わる多くの方々が集結して安全で健康的な美しい生活環境の創造を目指して様々な活動をし、情報を発信しております。

当協会の調査研究委員会の情報文化部では、3.11 震災から復興を進める様々な都市、町、村の中から三地域を取り上げて町の復興にたずさわる様々な方々からその思いを語って頂き新しい環境創りに対するイメージの共有を進めてまいりました。いまましい災害から立ち直ってこれをチャンスに換えて新しい美しい都市環境、生活環境の創造に当協会が少しでも協力していければと念願し、被災地の皆様を支援していきたいと考えております。

(一社)日本建築美術工芸協会
会長 岡本 賢



被災地で
何が復興して
何が進んでいないか



「東日本大震災から4年」(2015年3月9日 日曜日) 東京新聞刊

東日本大震災
4年

東日本大震災の発生から十二日、四年にわたる被災の被害、避難生活、低価格の被褥、高価、福島の四十市町村にアンケートした、各町アタとともに、被災地へ「いまを伝える」。

自治体の整備した被災者を出す「災害公営住宅」は、この市町村に人口が知った。自ア「まだ準備が足りない課題」を「国に財政を要請的に充てて、避難生活の期間」が二年度の「復興計画」が二〇一五年年度と変わる。二への受けた。

ただ、仮設住宅では今も十六万が被災者。比較的先進である、復興公営住宅でも完全な避難生活、高価格の復興住宅は、長時間にこの二年間で市町村に二の二年間で、復興施設の用地や、業者物が、復興の次に近づいていると、明らかに準備が足りない。一「まだ準備が足りない課題」を「国に財政を要請的に充てて、避難生活の期間」が二年度の「復興計画」が二〇一五年年度と変わる。二への受けた。

被災者の影が残る被災者の市町村からは、課題が多岐にわたる。復興計画、一「復興計画」を「国に財政を要請的に充てて、避難生活の期間」が二年度の「復興計画」が二〇一五年年度と変わる。二への受けた。

公営住宅完成率
19%

自治体が整備して被災者に貸す「災害公営住宅」は、東北3県で2万9000戸を計画。昨年末で9割近い2万5392戸は用地確保が済んでいるが、完工済みは今年1月末で19%にとどまる。工事のスピードアップが課題だが、資材と人手不足の問題が立ちはだかる。

ボランティア
2%

東北3県各地のボランティアセンターなどに登録して活動したボランティアは、2011年5月がピークで18万2400人。昨年12月はその2%にあたる4000人。被災者の思いを聞く傾聴ボランティアや仮設住宅のお年寄りの買い物代行などニーズはまだ多い。

假設住宅
16萬人

東北3県でプレハブ仮設と
暑り上げの「みなし仮設」で暮
らす人数。プレハブ仮設では
岩手が2万2300人、宮城3万
5332人、福島2万3794人。プレ
ハブの建物のカビがはえるな
ど、老朽化が問題。一方でビ
ック時より入居者が減り、使
設にとどまる人の孤立化も、

入札不調
4085件

東北3県で2011年度から12年度(各県の最新データ)まで、入札が不調に終わった件数。全入札件数の2割に当たる。復興需要で資材と人材が不足し工事費の高騰が主因。「東京五輪関連の工事や需要が増えればもっと資材と人手が不足する」との心配も多い。

農地の復旧率
70%

復興庁によると、津波被害を受けた青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉6県の農地2万1480㌃のうち、70%の1万5060㌃が2014年末までに、除塩などの処理を経て営農可能となった。昨年1年間で営農可能となったのは1590㌃。

福島県の求人倍率
1.52倍

昨年12月、福島県の有効求人倍率は1.52倍と、バブル期の1992年5月以来、22年7カ月ぶりの高水準。除染や建設作業員など復興需要が押し上げた。宮城は1.35倍、岩手は1.17倍と、いずれも復興需要により高水準となっている。

漁港の復旧率
56%

津波で被災した漁港319カ所のうち、昨年末までに56%の178カ所で全機能が回復。一部回復済みの潜を含めると75%に上る。養殖施設も7万6193カ所の9割が復旧。魚種や養殖の種類によって水揚げ量、生産量にばらつきもある。

孤独死
220人

震災発生後から今年1月末までに、東北3県の仮設住宅で孤独死した人数。岩手が27人、宮城87人、福島126人。室内で死亡している状況で発見された独居者を、孤独死としている。自殺と思われる人も含む。

鉦工業の復旧率
98%

津波浸水地域にある鉱工業事業所への調査では、生産額は2010年の1兆877億円の8%に当たる1兆653億円にまで回復。11年は3602億円にまで落ち込んでいた。復興に伴う半壊工事が需要を押し上げていることが要因。

不足職員
277人

東北3県の自治体には、全国から計1630人の応援職員が来ているが、3県で計277人が不足。各県からは「応援職員は任期が限られており、地域に慣れて仕事が回り始めたころに交代となってしまう」との声も聞かれる。

3. 11以降～東北の文化を考える～ 三地域横断座談会『なぜ その地に居続けたいのだろう？』

平成 26 年 9 月 26 日（金） **石 巻 編**

ご挨拶

大地がそうなると思う時、その声に耳を澄ませ、あしたの世界がそれに叶う美を纏える姿を私たちは設計する仕事です。萬画館を設計した建築家でもあり、未来の夢の設計者でもある黒木さんがお声掛けし、石巻からその夢を共に育む方々を本日はパネラーとしてお迎えしました。皆様に今の石巻の心をお運びいただき、その喜びや悲しみ 明日への思いを少しでも共有するための一理塚、良い座談会になることを願っております。

情報文化部会部会長 坂上直哉

石巻の市街地を中心に流れる、旧北上川の下流には広大な汽水域が広がっています。“この水面が見えなくなったら、そこはもう自分たちの故郷ではない” 街の人たちは口々にそう語っていると、聞いています。3.11…東日本を襲った巨大地震とその後に生じた大津波…あの強烈な体験をしてもなお、何故、その想いを共有していただけるのか。街の力、場所の力とはどのように作られ、伝えられているのか。かつては米の集積地でもあり、千石船の行きかう東北地方きっての物流拠点でもあった歴史ある街、石巻。石ノ森萬画館のある中瀬を中心に、川は人を育み街は人を集め、様々な文化や絆を繋ぎ続けてきました。本日は石巻の方々、またその復興を支援してこられた方々をお招きして、“なぜ その地に居続けたいのか” お話いただきたいと思います。

出演者紹介

狩野章（カリノ アキラ）

石巻公演「バレエが街にやってくる」実行委員長。萬画館立ち上げ、中心市街地活性化イベント事業に尽力。震災前はマリニピア松島水族館企画営業部。現在、新規観光施設のプロデュースに従事。

阿部紀代子（アベキヨコ）

市内にて4代続く料亭八幡家の女将。萬画館立ち上げのキーウーマン。街の世話役として地域を纏める存在。

野口隆亮（ノグチリュウスケ）

東京在住。銀座で美容院を開く若手ベンチャービジネスマン。「バレエが街にやってくる」仕掛人。

黒木正郎（クロキ マサオ）

日本設計にて石ノ森萬画館を設計。震災後、石巻の男子中学生にクラシックバレエを見せたいと松山バレエ団による「バレエが街にやってくる」を発案。今回の座談会まとめ役。

高橋圭太郎（タカハシ ケイタロウ）

石巻座談会司会進行役。情報文化部会メンバー。織部製陶東京営業所長。

主 催：一般社団法人 日本建築美術工芸協会 調査研究委員会情報文化部会

協 賛：織部製陶株式会社 菊川工業株式会社 中村ブレイス株式会社 株式会社平和合金 株式会社ベクトル 安井建築設計事務所

メンバー：坂上直哉（部会長） 露口典子（副部会長） 高橋圭太郎 立松直樹 中川一人 中村仁美 藤田益一 吉川盛一 吉野ヨシ子

開催協力：小野行雄 七字祐介 南三一郎

参加者：60名（出演者：5名 協賛：2名 参加費支払者：51名 学生：2名）

3.11 以降 ～ 東北の文化を考える ～ なぜ その地に居続けたいのだろう？

目 次 Contents

石巻編（2014 年 9 月 26 日 開催）	5
配布資料（概要・出席者・参加者）	
石巻編に参加された方々よりのお便り	6
石巻編「かわら版」(Vol. 1/3)	8
久之浜編（2014 年 10 月 17 日 開催）	10
配布資料（概要・出席者・参加者）	
久之浜編に参加された方々よりのお便り	12
久之浜編「かわら版」(Vol. 2/3)	14
田村編（2014 年 11 月 28 日 開催）	20
配布資料（概要・出席者・参加者）	
田村編に参加された方々よりのお便り	22
田村編「かわら版」(Vol. 3/3)	24
三地域座談会を通してのお便り	30

*本報告書の表紙（表・裏）は、座談会リーフレットを流用・加筆し作成した。



三地域横断座談会に参加させて頂いて

思いがけないご縁で座談会のスピーカーをさせて頂きました。「日本建築美術工芸協会」とお聞きするの初めてでしたし、その会を構成されている方々の多彩なことに驚かされました。

石巻という東北の田舎町で生まれ育ち、育まれた郷土に対する思いは東日本大震災を経て自分の中で確固たるものになりました。津波の被害にあってもなぜ同じ場所を再開するのか……。今回の座談会のお話を伺った時に一番初めに問われたことでした。

それまで、無我夢中で復旧・復興にと向っていた自分を立ち止まり振り返らせる大きなきっかけになりました。

あの日、突然奪われた日常。そのまま終わりにすることはできませんでした。そう思った時、あまりの被害の大きさに自分という個よりも街という観点での考えを考へるしかありませんでした。街そのものが生き返らなければ、どうにもならないと思ってしまう。その街は、迷うことなく被災を受けたこの場所でした。今思えば、その事に何のためにも迷いありませんでした。

現在も継続して様々な取り組みをしております。どれをとっても、街を元気にすることが根底にあります。年々人の関心が薄れ、世界のあちこちで災害が起こっています。私達もいつまでも被災者だと言ってはいただけません。しかし、決して普通ではなく経験したことのない悩みや困難が立ちはだかっていることも間違いありません。しかし、今回の座談会を通じてご縁を頂いた皆様のようにこれまでの人生では決して交わることのなかった方々との出会いがあります。そうした出会いの中から、様々な考え方や知恵を学ばせて頂いております。一人では何もできません。皆さんのお力とお知恵をお借りして、少しずつ前に進んでいけるのです。

座談会の最後の質問に「5年先に何が必要だと思いますか？」と聞かれたことが忘れられません。5年先を思っただけで下を非常にあるがたいと思いましたが。そして、恐らく私はこう答えたはずで「何が必要なのかわかりません。始めての経験を重ねているのですから。ただ5年先、私達が必要となった時に手を差し伸べて頂ければありがたいです」今でも、あの時の回答から思えば変わっていません。起こる出来事ひとつひとつが初めてのことばかり。

阿部 紀代子／料理八幡家女将(石巻編出演者)

座談会を終えて、その後の石巻へ

昨年9月にお招きいただき、石巻の現状など話す機会を頂きまして、誠にありがとうございました。

ここ最近石巻を取り巻く環境は、4年以上不通になっていたJR仙石線がやっとのこと全線開通。街中に目を転じれば、市立病院の建設、町の中心に架かる内海橋の架け替え、復興公営住宅の建設などの空前の建設ラッシュ。

ど、独特の地域事情にも光を当てることが出来ました。この春、4年が経過し改めて訪れた石巻。

熱き日々は去り、復興のスピードが鈍化しているのではないかと憂う昨今です。

高橋 圭太郎／建材業役員(会員)

「忍」(耐)と「認」(識)の四年

今年(2016)で東北の震災から4年が経つ4月末の連休に石巻を訪れた。座談会・第一回石巻編での談話やその際のスライド画像、そしてネット動画で何回も見たこの地の惨状を思い出していた。

座談会にゲストとしてお越しいただいた八幡屋・阿部紀代子女将のご案内で、新たに完成した復興関係の施設を案内していただいた。

石ノ森萬画館へ至る橋通りとアイトピア通りの交差点に沿い、かつての店舗を再生した「絆の駅・石巻ニューゼ」。ここでは津波の到達までの人の行動をジオラマとして表現、当時の行動を再現することを目的とした施設でもある。

そして、橋通りから一本隔てた八幡屋のある松川横丁の路地をつなぐ地点に新たな飲食ビル「COMICH 石巻」が建設工事中で、今年の夏に竣工を迎えるという。このビルは、飲食店店主らが費用を出資した飲食ビルで店舗にはそれぞれ味覚の違うテイストの店で構成されるのだという。「やっぱり、飲食店がないと人は来ないからね」、集まって話す場がないとね」と女将が語った。

中心部の橋通りには震災後、初めてのマルシェ「橋通りCOMMON」という屋台・トレーラーハウスによる飲食・雑貨店が店出していた。震災から4年を経て、今年の連休に併せて計画されようやくオープンにきつめた。

内海橋を渡り中瀬へ向かう。石ノ森萬画館の手前に旧北上川の復旧状況、新しい水辺の堤防整備計画を示すプレファブ施設「水辺の復興未来館」(国交省東北地方整備局北上川下流河川事務所)が設けられ、これからのこの地のあるべき姿を市民とともに考えていくのだという。市民参加を呼び掛けている。

萬画館から川周辺の様子を見ると未だ川沿いの護岸工事が行われ、タワークレーンも石巻駅前の市民病院建設工事くらいしか見ることができない。これが4年を経た街の姿なのか、というのが率直な感想であった。

日和山に登り街の様子を俯瞰で見に行つた。そこに、マルシェで見た地元のケールテレビ取材版のインタビュアーを受けた。

「地元の方ではないですよ……? 今日はお花見ですか、目的は?」。

「石巻の今を見に来たんです。眼下にはわかりませんが、一歩づつですが確実に動いているんですね。この4年間は次に備えるべきことを皆さんが整理し、これまでできていなかったことを改めて見直し、そして認識・確認するための時間のように思いました。真つ直ぐ前をみて、動いているんだと実感しました。ここにこれからも居続けるために……」と、少しこぼれぬ感じではあったが、インタビュアーにはそんな話をし、地の土産を買って石巻を後にした。

吉川 盛一／建設計画プランナー(会員)



上右・料理八幡家・震災当時の様子
上左・震災津波後の市内で
下・石巻中心市街地に建設中の復興集合住宅



「料理店の震災談話」石巻芽生会(2014年10月発行)と「八幡屋のパンフレット」(左)



海も山も
自己責任か
青い空



上・右:石巻ニューゼ・震災時の市民の行動を記録したジオラマの展示
上・左:震災後、初めてのマルシェ(2015年4月29日撮影)
下:中瀬に設置された「水辺の復興未来館」(同上)



中瀬、橋・護岸工事の様子(2015年4月29日撮影)

その一方で最大の被災エリア南浜町や門脇町の大部分は、まだかさ上げ工事が始まらず、石巻市内で進められている複数の再開発計画のうち、2件が一部の地権者の同意が得られず、白紙撤回。このように被災地石巻では一進一退が続いており、いつになれば「復興」の二文字が現実味を帯びて見えてくるのか、まだまだ分からないのが現状です。また、2011以降、日本国内では数多くの自然災害が発生し、遠く東北の地で起こった災害は記憶の彼方に行つた感もありますが、こうしてご縁を頂いた皆様には、此方の復興はまだまだ時間がかかりそう、ということも少しも覚えていただければ幸いです。お時間あれば、是非此方にお越しいただき、ご自身の眼と耳で被災地の現状をご確認頂く機会を頂ければと思います。

狩野 章／会社員(石巻出演者)

その土地の宝物を探しましょう

2011年6月に石巻を訪れたときの中瀬に佇む萬画館と教会の情景は忘れることのできない記憶となっています。昨年開催された東北三地域横断座談会の石巻と久の浜に参加し地域の関係者の貴重な話を拝聴したときの私の想いを述べて置きます。石巻では地域を象徴する顔として中瀬をあげています。石巻港、魚市場も宝物です。無い物ねだりではなく、在る物を探ること、身の丈に合わない開発はしない、持続可能な魅力あるコンパクトシティづくりを願っています。

これから、宝物を探して下さい。次に宝物をどう繋ぐかを考えることが石巻を再生する一つの足がかりになると思います。宝物の探し方は東北工業大学、神戸大学、石巻専修大学などの学生により制作された1500の模型によるワークショップが参考になります。

村松 映一／建築家(会員)

東北・三地域横断座談会・石巻編を終えて

東日本大震災で最大の犠牲者を出した石巻に「石ノ森萬画館」という不思議な魅力をもつ建築があります。建設当初は街の再生と、地域の強い熱意に後押しされ建てられました。震災時は、設計者・黒木正郎さんの高い安全意識もあり、津波に耐え一時的な避難先として高い機能を証明し、その後は、復興のシンボルとして今日まで注目され続けています。周辺には、主要市街地があり、賑わいと地域の人々の大切な生活の場と成っています。要的要地「中瀬」周辺は、この街の人々の心を集め続ける大切な場所でもある様です。街の歴史や北上川を有する地勢と人々の関係に焦点を絞り、「何故、人はその地に居続けるのか」場所が持つ力について答えを探りたいと考えました。

震災以前よりこの地域を悩まし続けてきた過疎化の問題。俗に云うシャッター商店街の話から、実際に聴く震災・生々しい津波の話。復興に当たっては何故「萬画館」が最初なのか? その後訪れたボランティアの方々を受け入れた地元の姿勢な

「三地域横断座談会「石巻編」を振り返って」

同じ被災地、釜石出身である私は故郷に思いを馳せつつ、石巻の座談会に臨んでおりました。折につけ復興、復旧の遅れが伝えられる状況にあり、正直なところ「文化」を語る段階なのか疑問に思うところもありました。しかし、パネラーの皆様のお話や試みを伺うにつれ、私のほうが復興というものを狭義にとらえていた事に気づかされました。復興とはある明快なカタチがあるわけではなく、多種多様な観点から模索し成し遂げられていくものだと思います。震災で失われたものを取り戻すことのみではなく、震災以前に抱えていた地方の課題に向き合い、新しい街のあり方を考える創造性を含んだ営みととらえるべきでしょう。

被災地でなければ関わりも生まれなかった方々との出会い、国内外から有形無形の支援を得る一方、自律自尊の地域再生の道筋が開けてくることを願ってやみません。

秋元 幾美／建築士



製鉄の釜石といわれていた頃(1980年代)



震災後、アニメ「ドラえもん」上映会の様子

東北の文化を考える「三地域横断座談会「石巻編」に参加して

震災後、石巻ではいろいろな人が訪れ復興に向けてさまざまなコラボレーションやクリエイティブな試みが行われてきました。そのような中、復興へ大変な日々において「パレエ公演」と「復興」という通常では結びつかないような2つの事柄を受け入れ、紆余曲折を経て最後には実現させてしまう石巻の人々の受容力、おもしろさに大いに感銘をうけました。それは石巻という土地で脈々と受け継がれてきた「文化」への土壌と、地元の人々の「誇り」と「愛着」とがなせる業で、それが「明日を生きる力」を生み出すのだと感じた次第です。復興へと生きるまちの人々の灯にふれた有意義なシンポジウムでした。

三上 紀子／建築家(会員)

東北三地域 横断座談会 から 石巻Ⅱ編 Vol.1/3

「かわら版について」
このかわら版は、平成 24 年 9 月 26 日に開催された東北三地域・横断座談会「石巻Ⅱ編」の要旨をコンパクトにまとめ再録したものです。

【はじめに】
高橋圭太郎 (進行)
何が、東京の僕らに出来るのか？それが石巻を選んだ始まりでした。震災から一年が過ぎた頃、石巻へ向きました。雨が降って肌寒い中瀬の風景に、卵の様な萬画館がボツンと寂しくありました。漫画の世界にある様なスベシシーな外観が、あの津波後という異常で殺伐とした風景と重なり、現実が現実ではないかのように重なるってみました。それが石巻を選び、この座談会開催の起因となったのでした。石ノ森章太郎先生の作品から語られるメッセージが符合する、目の前の現実、救済や支援とは？我々にはいったい何が出来るのか？と云う自問自答が在りました。

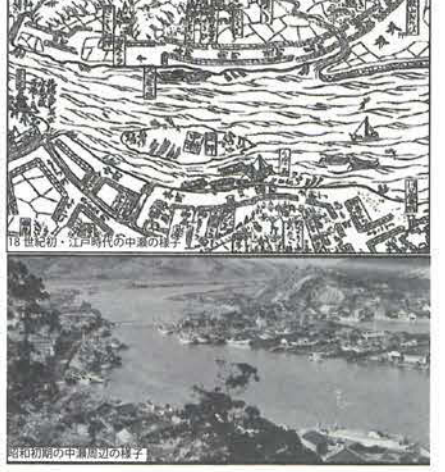


写真①上・中瀬に建つ「石ノ森萬画館」
写真②上・同館のキャラクター・仮面ライダー



写真①下・中瀬に建つ「石ノ森萬画館」
写真②上・同館のキャラクター・仮面ライダー

●石巻の歴史・江戸時代の石巻は、北上川水運によって南部藩領からも米が下り、河川交通と海運との太平洋側の結節点として、日本海側の酒田港と列んで奥州二大貿易港として全国的に有名であった。また、東廻り航路の基点として、北前船による江戸との交易も盛んで、江戸期の長い期間において石巻港から江戸へ送られた米は江戸市中で流通する米の半数を占めたという。藩政時代には名実ともに仙台藩の経済の中心地として栄えた。



図① 石巻市の位置



写真③上・江戸時代。物資の交流で栄えた石巻市内の様子。
写真④下・昭和 40 年。活気ある石巻市内商店街の様子。



写真⑤ 座談会の様子 / (左から) 黒木さん、野口さん、阿部さん、狩野さん、高橋の順



写真⑥ 来場者の皆様

●黒木正郎 (ナビゲーター・石ノ森萬画館設計担当、この回は全ゲストを結ぶ、唯一の人物)
私にとって石巻は初めての土地で、「石ノ森萬画館」(写真①)の設計にあたり、まず此処の歴史・風土を調べることから始まりました。
江戸時代、中瀬は北上川流域の物資の集散地として栄え、近くには支倉常長の遣欧使節の出発地があり、また後には造船業が興りました。調べているうちに、かつてのメイトルの津波に襲われたことも分かり、萬画館の重要資料は 8 メートルの位置にいました。3 月 2 日の際は一階が被災しましたが、幸い重要資料は無事で、修理の後 2013 年 3 月には本格的に再開できました。現在、萬画館には年間 20 万人が訪れています。

先ず、私はここで「コンパクトシティ」を提案したいと思っています。このコンパクトシティとは、単に縮小した街の意味ではなく、「中身の濃い地域づくり」を意味しています。「文化による街づくり」も復興のコンセプトの重要なポイントの一つです。中瀬を大きな舞台に見立て川岸と対岸が客席になったら、世界に一つ「劇場都市」ができる。中瀬は「舞台」、文化の土壌が無いところに文化は育たない。「場所の力」、この街には「人と場」が重なる場所がある。自分が本当にいいと思っているもの、この街はなかなかないでしょう。

「無い物ねだり」ではなく、「在る物探し」の必要性と再確認です。これからの石巻を考えると、コンパクトシティを目指すべき街だということ、そして、持続可能な、というのがキーワードだと思っています。

中瀬には萬画館がありますが、「自由の女神」があっても面白いのではないかと。例えば、ニューヨークの中心マンハッタンにならって、「マンガタン」っていうのはどうでしょうか(笑)。出来ることを淡々とやっていって、そこに付加価値を付けていくと、上手くいくと思います。

石巻は、世界的な観光地になる地です。食べ物、歴史、歴史がある都市は必ず栄える。石巻を視ると地形や土地にパワーがある。20 世紀型の開発ではない開発を目指す都市だと思っています。

●阿部紀代子 (料亭八幡家・女将、地元の話人)
その当時、私の店も 200 ㎡の浸水をしました。何故その場で店を再開するのか？という問いを頂いたとき、「中瀬」この場所が石巻の顔だと思いました(図①)。対岸の方は、街に出ていくときに石巻に行くという事からも解る通り「石巻」を象徴する場所なのだと思います。震災は、地元だけではどうしようもない事態でしたし、自分達だけではどうしようもない状態でした。当時は音楽を聴く事すら気持ちが湧き立たず、苦痛でした。100 日を過ぎて、きれいな物を見て、音楽を聴いて心打たれて涙が出ました。

外からの支援は、地元で何かをしようとする芽を摘まないことが必要です。そして、一方で地元の受け皿が必要で、受けるのか受けないのか？人口となる地元で吟味する必要があるはず。先の「パレエ」が街にやってくるでも、かつてパレエ研究所が石巻にありました。そこが街の皆さんの心の記憶の一部を動かし、大きな感動になった。それでそれを知る方々に一番にお話して、実現に至ったんです。

強い思いをもって石巻を訪ねてくれる若者が多いので、そういう彼らに頼む仕事は何か？と考えて接しています。商業ベースではなく、感動する支援であるかぎり、若者は協力してくれています。

現在、街の再建計画も行われていますが、単なる「復興」ならばただ街を元に戻すだけのことになってしまいます。この機会を利用して次代への石巻の姿を考えると、気持ちの街の方々は共有されています。しかし、国の補助金の一部は復興となれば、それは駄目だということになっていたりします。「復旧のためであり復興ではない」ということを言われました。様々な制度のひずみに街づくりの計画は議論と試行錯誤の連続です。

一級河川なのに堤防が無いのが普通、「珍しい」と云う事も知らずに住んでいました。身近に川

●野口隆亮 (株式会社 AICA 代表取締役、イベント・コーディネーター)
私は、東京の住人ですが、地域との交流を目的としたワークショップを企画しております。石巻とは 2011 年 9 月から関わり始め、今年の 3 月 15 日に石巻中学校に 1300 名の観客を迎えて、地元の方と共に松山パレエ団の「白鳥の湖」公演を実現することができました。

今、石巻を客観的に見ると、東京からの支援を受け慣れているように感じています。市民の方々は、寛容な方が多い。地域の方と上手くいく(よそ者に対する拒絶感が少ないという意味でも)地域であると感じました。何かやりたいう衝動を持って向かい合ったとき、人口と成って頂ける人がいる地域は大変に貴重だと思います。震災以降、多くの若いボランティアの方々が全国各地から来てくれましたが、その中にはここに定着する人が出てきています。本来はあり得ない事だと思います。地域への定着はとても嬉しい事です。居心地が良い、コミュニティに役割さえあれば外から入って来やすい、めずらしい地方都市だと思ふ。必要とされることの喜びを経験したことが、その人の生きがいとなり定着の動機となっているようです。今後、必要なことは私なりに見て、具体的な支援として在宅医療・ヘルスケアが大事だと思っています。

【座談会を終えて】第一回石巻編。それぞれこの地に生きる方にとって支援の意味や難しさを感じました。外部支援は、お任せでなく何が本当に必要なのか、行う側・受け側の問題が露呈した意見交換でした。短い時間でしたが問題点やこれから支援の仕組みに警鐘を鳴らす意見が印象的でした。まだまだやることはある、それが見えた気がしました。(編者)

「石巻編」かわら版 平成 26 年 10 月 15 日
会場：東京大学農学部・弥生講堂アネックス
○テキスト：小野行雄(調・研) 高橋圭太郎(情・文)
○編集担当：吉川盛一(情・文)
○発行：AICA 情報文化部会



久之浜大久地区まちづくりサポートチーム

▶共同代表 小澤洋平 遠藤 諭 基 真由美 栗田祥弘

▼メンバー(順不同)

松岡 淳	石田優衣	佐藤拓朗	梶野沙織	久保堅太郎	水落真衣
宮澤 豪	安達響子	石川真吾	斎藤将太郎	熊谷新太郎	滝本 翼
戸井田典子	佐久間省吾	井上勇人	金子駿太郎	花房 孝	川田夏実
高橋秀可	小林誠太	佐藤恵太	青木奈緒	真田義隆	岡本拓己
中野美帆	本藤太郎	大野馬佑衣	野田寛敏	小川陵祐	小野拓弥
矢野絵美	石井八千代	久保田 賢	石川優馬	長谷川貴大	近藤来美
脇谷聡美	片野悠記子	中島亜唯	野村来未	永井 瞳	橋元一成
濱中 峻	葛西美奈	織田有紀	古川 亮	杉田奈美	鶴田 叡
森田啓介	加藤朋子	京野朗子	伊藤琢弥	目黒周作	青木捷悟
佐藤綾香	福島広大	阿部みづき	宮本凱土	川島俊哲	宜志富紹馬
近藤靖俊	土田克輝	堀 裕輝	高垣克哉	数藤朱梨	池田けい
西 寿隆	大内佳菜	宇田川 俊之	秋山利奈	佐藤勇輔	草野良平
吉野有哉	高田賢也	山本桃子	中村智玲	北村友譜	東瀬由佳
奥泉理佐子	行方 綾	竜石堂優人	尾花さき	住司 峻	
景山雄太	ハラシナユカ	根塚優子	加藤 洲	岸田淳之介	
久保永利子	大野絢子	村上あかり	五十嵐雄大	江川 優	
鈴木美咲	墳本優太	末富 亮	川野辺怜奈	落合志保	

計102名

▼これまでの主な活動

2012.5.20 久之浜町の復元模型寄贈
 2012.10.20 久之浜ワークショップ(奉奠祭にて)
 久之浜の過去、現在、未来を考えるための3つのワークショップ「おもひでカフェ:記憶のマッピング」
 「ぼくのつくるまち:まちをめぐるスタンプラリー」「ひさの浜、どんな浜?:防災緑地に関する4つのシナリオ」を実施した。
 2013.1.20 まちづくり座談会 @久之浜第一小学校
 2013.2.3 模型制作ワークショップ/豆まき大会 @久之浜第一小学校
 2013.2.16 模型制作ワークショップ/February Sky @久之浜第一小学校
 2013.2.17 まちづくり座談会 @久之浜第一小学校
 2013.6.7 久之浜の未来を考えよう「久之浜の防災計画、防災緑地について学ぼう」
 久之浜第一小学校5・6年生の授業内にて
 2013.6.14 久之浜の未来を考えよう「防災緑地について自分で考えよう」
 2013.6.21 久之浜の未来を考えよう「防災緑地についてグループで考えよう」
 2013.6.28 久之浜の未来を考えよう「防災緑地についてグループでまとめよう」
 2013.7.5 久之浜の未来を考えよう「防災緑地についてグループでまとめよう」
 2013.7.12 久之浜の未来を考えよう「防災緑地について発表しよう」
 2013.7.13 久之浜地区防災緑地ワークショップにて発表
 2013.9.1 ふくづくりワークショップ
 2013.9.28 ふくづくりワークショップ
 2013.9.29 HISANOHAMA COLLECTION
 久之浜町の風景をテーマに子どもたちが風景に合う服を制作。自分たちでつくった服を着てランウェイを歩くファッションショーを開催した。
 2014.2.28 東日本大震災における建築家による復興支援ネットワークの3年間「アーキエイド総会」参加
 2014.8.10 久之浜ワークインプログレス(演劇公演)
 2014.8.17 南町愛宕神社 ベンチプロジェクト
 2014.9.20 Hisanohama aquarium みんなで水族館をつくろう

3. 11以降～東北の文化を考える～

三地域横断座談会『なぜその地に居続けたいのだろうか?』

平成26年10月17日(金) 久之浜 編

ご挨拶

20代～30代の若い多様な才能が、誰から頼まれたのでもなく、久之浜に向かいました。その数、延べ約100名と聞きます。来訪者と在所者が共に育つ、多くの企画を生み出す新しいエンジンを開発したようです。本日は、まちづくりサポートチーム共同代表・建築家栗田さんがお声掛けし、久之浜からパネラーをお迎えしました。これからの時代を支える新たなエンジンの意味と性能を、おおいに語り合いたいと思います。

情報文化部会会長 坂上直哉

久之浜を知ったのは一本の電話からでした。昨年4月、福島県の田村を訪問することになり、栗田さんにもお誘いの電話をしたら、彼はちょうど街づくりのサポートでいわきの久之浜に来ているとのこと。「よかったら案内します」と言われ、田村訪問時に何の予備知識もないまま久之浜まで足を延ばしました。ところが、目の前に広がった風景は…私たちは言葉を失いました。

地震、津波、大火事と、幾重にも被災した久之浜は、原発30km圏の小さな海沿いの町です。その町で、今年キッズデザイン賞受賞のビッグニュース。栗田さんたちは一体どのような活動をしてきたのでしょうか。町の人たちや子どもたちは今どうしているのでしょうか。お話を伺います。

出演者紹介

松本 光司 (マツモト コウジ)

前いわき市立久之浜第一小学校校長。震災直後に赴任し、安全な環境づくりに尽力し、子どもたちに希望とプライドを植え付けた名物校長先生。今年の4月からいわき市立好間第一小学校校長。

木村 謙一郎 (キムラ ケンイチロウ)

久之浜の鮮魚仲卸・水産加工会社の「いちい水産」取締役。久之浜第一小学校に子どもを通わす親でもある。震災後からまちの未来を思い、いわき市議会議員となる。

栗田 祥弘 (クリタ ヨシヒロ)

建築家。栗田祥弘建築都市研究所代表。nextstations共同主宰。2012年から「久之浜大久地区まちづくりサポートチーム」の共同代表として久之浜・大久地区のサポートを続ける。

濱中 峻 (ハマナカ シュン)

映像演出家。「久之浜大久地区まちづくりサポートチーム」の創設当初からのメンバー。2014年から久之浜からインスピレーションを得たパフォーマンスを制作・上演している。

露口 典子 (ツググチ ノリコ)

久之浜座談会司会・進行係。情報文化部会副会長。文化環境プロデューサー。アートアソシエイツ八咫主宰。

主 催：一般社団法人日本建築美術工芸協会 調査研究委員会情報文化部会

協 賛：織部製陶株式会社 菊川工業株式会社 中村ブレイス株式会社 株式会社平和合金 株式会社ベクトル 安井建築設計事務所
 メンバー：坂上直哉(部会長) 露口典子(副部会長) 高橋圭太郎 立松直樹 中川一人 中村仁美 藤田益一 吉川盛一 吉野ヨシ子
 開催協力：小野行雄 七字祐介 南三一郎(調査研究委員会調査研究部会)

参加者:76名(出演者:5名 招待者:8名 協賛:2名 参加費支払者:57名 学生:4名)

私の故郷久之浜

久之浜の文化と云えば第一に南の波立から北の殿上山までの自然の海岸線の美しさ。昔有名な歌人が波立に立ち寄り「みちのくのこのみが浦に旅ねして明日やおがまん波立の寺」の一句を残され、碑も建てられてありました。波立薬師の夏のお祭りは町中の人々が着飾って、アジサイの花が咲いているお寺の庭を通って、お参りし沢山の出店もあり、海水浴場としても岩場あり安全で楽しい場所でした。また東町は海に近いので海水浴をする人、きれいな砂浜で遊ぶ人、また大久川が海に合流しているの川で泳ぐ子供達もたくさんおりました。町のお祭りは神社から「みこし」が出発し町中をねりあるくので、町中がお祭りムードいっぱい。境内での「うらやすの舞」や夜の駅前広場での盆踊りも大賑わいでした。

学校の運動会もお祭りで、各部落より選手を選び部落リレーは大人気でした。

『月』今は山中今は浜ノ間を通じて広野原』この歌は北町から見えるトンネルを越えて隣町へとうたわれたとの事。さて、久之浜の産業、それは漁業です。かげ磯は、海のトンネルを通り抜けると港があり漁船が魚を満載して戻るとの「キテキ」で多くの人々が集まり活気があり、しかも魚は大変おいしいと評判でした。一方山側には三ツ森山が聳え、のどかな田園風景。きのこ、わらび山ぶどう等沢山とれました。大久出身の歌手霧島昇氏による「誰か故郷を想わせる」も日本中の心をとらえました。住めば都でしょうが、故郷はいいものです。現在困窮した久之浜を助けてくださる皆さんに深く感謝し地元民も頑張ることを陰ながらお祈り致します。

(※坂井様は久之浜編にご参加、最後に熱いお礼の言葉をいただき一同感激でした。左頁写真参照)

坂井 照子／(久之浜出身)

いわき久之浜

セミナー案内の「久之浜」の文字を見た時に、〇二以降の高木芳夫様の消息を又その後の様子が判ればと即参加申込を致しました。

高木様には昭和39年いわきでの造成工事の所長会で知己を得、仙台の業界で、また市議でご活躍中にも色々ご指導を頂戴しておりました。

今回の濱中様の座談会冒頭の演技(久之浜を題材にしたパフォーマンス)を通して、身震いながら当時の久之浜の状況を把握し、身を震わせた。

後日また、濱中様の新しい舞台を拝見する機会があったのですが、今度は高木様がテーマで驚きました。奥さまの心の中の具象には涙を禁じえませんでした。

翌々日、早速久之浜へ出向き、現地でご活躍の遠藤論様のご案内で、小さい骨壺の安置されたご霊前に額つき遅きに失した事を詫言致しました。高木様(※)のご母堂、奥様に何と申せば良いのか。

御会主催の東北の座談会を通して、自分の知り得なかった素晴らしい方々との出会いがあり、これも又高木様の御導きと思っております。

(※市議も努めた高木様は皆に慕われ地域のまとめ役だったそうです。震災後長い間行方不明でしたが、三年後に腕の一部が見つかり死にが確認されました)

船越 靖彦／(建築業)

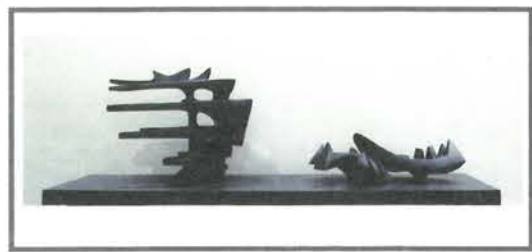
見えない神社

先人は知恵と経験を総動員し、安全な場所に社を建ててきた。
「万が一の時はここに来れば安心だ。ここに集まれば誰かがいる…」
神社は、そんなメッセージを土地に結びつける楔のようなものではないだろうか。

また、そこでは祭事が催され、地域に暮らす人々が互いの結びつきを確認し合う。神社は「地縁」を育む場でもあるのだ。

座談会では、仮設商店街での郷土料理、地元の風景をテーマにしたファッションショー、海街を望むベンチの設置などの活動が紹介された。一度離れた土地との関係、人々の関係を、再び結びつけようとするその活動は、私にはまるで「見えない神社」を建てているかのように思えた。

吉田 清人／(建築設計者)



故日高肇也副会長遺作 (久之浜を訪れた折の情景をオブジェ化)

久之浜を感じて

生まれてこの方東北の地を訪れたことがなく、その地に住む親戚や友人などもない私にとって、東北の地は地図上での距離以上に縁遠く感じる場所であり、被災地について考える際も、どこかアリティが欠けているような気がしていました。そのような中で参加した座談会でしたが、濱中さんの演劇では久之浜の情景を感じることができ、松本先生や木村市議会議員の表情からは、今なお続く被災地の困難な状況が見て取れました。

座談会で被災地に関係する方々の生の声を聞いたことで、今まで縁遠く感じていた東北の地との心の距離が近くなったと感じています。そして、この座談会を震災や東北の地について改めて考えるきっかけにしたいと思います。

松川 健太／(建築業(会員))



久之浜に視察に行った折の風景 (2013年4月)

もの言わぬ
社はその日
なにを見た



村さらい
星の多さに
立ちすくむ



現在の久之浜地区 (左) 久之浜・当時の想い出 (上・右)

「他」の文化へ

東京から通いで久之浜のサポート活動が続けてきて〇年、最近では久之浜の文化を記録する活動を始めました。その一環でインタビューをした折に現地の方が「郷土愛と排他性はコインの裏表だ」とおっしゃったことがとても印象深く心に残っています。「地元ばかり愛していると、よそ者を遠ざけてしまう」そういった認識を現地の方が冷静にお持ちになっていることに私は深い感銘を覚えました。その言葉はたくさんの考察を与えてくださりました。

震災や原発事故に直面し、日本全国、いや世界各国の方々に支えられ、また私のようなよそ者を育ててくださった久之浜、広げるならば東北だからこそ、もう少し先を目指せるような気がしています。それはつまり「地域が、他の地域について考えられる体を持つこと」です。

とても深い傷を受け、乗り越え、分かち合ってきた人々だからこそ他者について考えられる大きな器が少しずつ生まれつつあるように思えるのです。

「もしかしら、久之浜は、福島は、東北は、あらゆる文化が寄り添える場所になるかもしれない」

これは夢物語でしょうか。私自身、これがどれほど有効なビジョンかは正直わかりません。それでもいつの日か、久之浜の皆さんと共に世界や他者について考え、共に活動し、東北の地が多様な文化溢れる地になることを夢想しながら、今日も久之浜へ足を運びます。

濱中 峻／映像演出家(久之浜編出演者・久之浜大久地区まちづくりサポートチーム)

未来(子どもたち)につなげる地域文化

横断座談会三編の一つ「久之浜」編を覗きに行った。個人的には「建築家」「子ども」「商店街」といったキーワードに引き寄せられた。原発〇キロメートル圏内といった立地で、〇二以降にその地で人々がどのような環境を受け止め、さまざまな行動に結びつけ、さらに、どのように未来を見据えているのか。共感とともに地域の「文化力」を座談会冒頭「ことば」のパフォーマンス(濱中峻氏演出)からも再認識した。

建築設計、まちづくり、商店街の活性化等に携わってきた者として、子どもたちが成長した未来には、その地での思い出が愛着となり、地域の文化に根付いたまちづくりを次世代が引き継いでいることを期待している。そのための地盤固めは大人たちの責任であろうといった共通した地域の課題が本編にあったように思う。

また、課題解決には、自分たちだけではなく協力者とのつながりの重要性も示唆された。

鈴木 寛子／(建築家)



久之浜での当時の想いを語る坂井照子さん

東北三地域 横断座談会 「久之浜」編 Vol.2/3

「かわら版について」

このかわら版は、平成時 24 年 10 月 17 日に開催された東北三地域・横断座談会「久之浜＝編」の要旨をまとめ再録したものです。

【はじめに】 露口典子（司会・進行）

まず、私たちがどうして久之浜を訪ねたのかという事です。これは非常に偶然でした。もともとは、田村のお人形様の衣替え行事を見せたいと旅に栗田さんをお誘いしたところ「今、久之浜にいます。まちづくりのサポートをしています。田村は久之浜の近くの、田村まで行くなら案内します」と言っていたので、行きでした。

田村はとても美しい田園風景が広がる所ですが、いわき市に入ると段々風景が変わってきます。汚染土を詰めた黒い袋が連なり、「ここです」と言われた海の方は建物は何も残っていません。地震後の津波、そして、火事で全部焼けてしまった訳です。僅かに残っているのは神社だけ、それは衝撃的な風景でした。



写真2 b 山側より



【久之浜の位置】
久之浜は福島県の南、いわき市の北側の海沿いに位置し久之浜町と大久町の二つの町と隣の 14 の市町村が合併していわき市になった。福島第一原子力発電所から 30 キロ圏内を掠るところが久之浜町である。

●濱中 峻（映像演出家、サポートチーム・パフォーマンズ担当）会場のダウンライトが消え、氏一人による約 15 分のパフォーマンスが行われて本会がスタートしました。（内容略）

このパフォーマンスは「かげろう」と云います。久之浜の取材を一年程しておりまして、今回、特に漁業関係者にインタビューして、その取材の音声を聞きながら喋るというパフォーマンスを会の冒頭に行いました。

●露口（司会）濱中さん、有難うございました。それでは栗田さんに久之浜の位置関係また、今回のゲストの皆様のご紹介をお願いします。

●栗田祥弘（建築家、久之浜大久地区まちづくりサポートチーム共同代表、コミュニケーター）まず、久之浜からお越しいただいた方々をご紹介します。

●松本光司先生は、2011 年 8 月から 2014 年 9 月まで久之浜第一小学校の校長先生をされていました。そして震災後の子供たちの環境をどのように整えていくかを現場で尽力された名物校長です。

●木村謙一郎さんは、生まれも育ちも久之浜で、大学卒業後はイギリスのバーミンガム大学でエジプト学を学ばれた方です。28 歳からいわきに帰ってご実家の水産加工会社に入り、25 歳で社長に就任されました。そして 6 月後に震災に遭われ、会社もすべて流されてしまった経験がされました。震災後は何か町のために出来ないだろうかと考え、市議会議員になり、復興に尽力されています。

●朝はバスで送られて来ます。久之浜から約 1 時間かかります。これも子供たちにとってはストレスなのではないかと思えます。このような生活をしていましたので、子供たちが壊れてしまっているのではないかと、避難・仮設、元に戻れない状況の中で、学校生活ぐらい元通りに戻れたら子供たちは夢や希望が持てるのではないかと、元の学校に戻る作業を進めました。そして 10 月 2 日、震災から 1 か月後、やっとその時が来ました。最初に出来たのが仮設の商店街で、校庭の敷地をお貸ししました。久之浜小学校は、漁業がさかんな頃は約 1000 名の子供たちがいた小学校なので校庭は広い、校舎も 2 階建てです。広い校庭なので地元の人々が戻る時にお店があるという事でお貸しした訳です。

●商店街の真ん中の所は、人が来るとおもてなししたり、ちょっとした空間をとて有意義に使っています。

●露口 子供たちにとっても嬉しかったのではないのでしょうか。

●松本 そうですね。実はこの商店街の門の所にスクールバスが停まるんです。150 名で学校がスタートしたのですが、地元の子は 80 名しかいなくて、残り 70 名は市内からバスで送られて来ます。実はこの商店街の叔母ちゃん達は、バスが来る時・帰る時に必ずここに来て、「おはよう」、ちゃんと宿題やれよ」と、店にお客がいても来てくれます。子供たちはここを通るたびに久之浜の良さを感じてくれたのではないかと思います。

●露口 子供たちは久之浜に帰りたいと願ひ、親は他に移ろうと考えていたのに、というお話を伺いました。

●松本 9 月中に除染作業をしなければならなくなったのです。このような手作業で 9 月から始

ます。これは航空写真で、久之浜の一部です。海岸沿いの部分が久之浜、山の側を大久といひ、合わせて久之浜・大久地区となります。

●久之浜というと、ほとんどあのぼつんと立っている神社の風景が象徴的になっています（写真 1 内の映像の写真）。先ほどの 8 年後のもので、やはり最初の一年後のはガレキが周りにありました。現在はガレキ・コンクリート基礎とも撤去され、その後はゆつくりと防災緑地の施工が進められています。防災緑地は、幅 20 メートル長さ 50 キロ以上で海拔 100 メートル程度の堤防となります。

●露口 木村さんは震災当時ここ久之浜に居たのですか。実は、友人が震災直後に行ける北限がここ久之浜でだったとメールをくれました。無事に避難されたのですか。

●木村 ここに居ました。その時自宅におりましたが、2 階でしたので流されず家族は無事で、高台の中学校が地区の避難所でそこに避難しました。夜になると火災があり、山の上からは止められず見ていながら一夜を過ごしました。そして、次の日は第一原発の事故の影響で、市の指示で私たちは自主的に避難するように言われ、最初埼玉の親戚に避難し、最終的には私以外の家族は妻の実家の広島に行きました。

●露口 私たちは今のこのような久之浜しか知らないのですが、先ほどの濱中さんのパフォーマンスに海の幸の話がありました。かつて久之浜はどんな町だったのですか。

●木村 昔から漁師町として発達してきて、久之浜は海水浴場でした。私が小学校 5、6 年生の頃に、波の影響で砂浜が縮小してきました。南に波立海岸があり初日の出で有名ですが、そこにはまだ海水浴場があります。父や祖父からの話ですが、昔はこのような大きなマグロも獲れたそうです。久之浜では殿上山が象徴的です。その北側に港と市場があります。街の写真では、2 件のオレンジ色の屋根の家を境にして海側が大きな津波の被害を受けました。そして大通りの右手がほぼ壊滅状態になりました。このあたりは住宅地で、私の自宅も写真の端、左側にあります。



写真3 久之浜第一小学校に戻った教室で

●めしました。東京からボランティアの人に来てもらい、ありとあらゆる草を取ったり、土に線量が多いという事で校庭の土を 5cm 削って、学校の真ん中に約 2 メートルの深さで、プール 8 個入る大きさを掘ってもらい、放射線が絶対漏れないというシートを張ってここに埋めて除染を行いました。安全基準 200 シーベルトを下回り 100 までになり、保護者の方々に学校に戻れますよとお話ししました。教育委員会はどうも親切で、それぞれの家庭に学校に戻るかどうかの調査をし、最後に僕は抵抗したのですが、もし希望があれば好きな学校に転校するよう配慮します、との事でした。つまり、今避難している近くの学校でいいですよ。と言ってくれたので、僕は先生たちと、戻るのは半分くらいかなと思っていたのですが、実際戻ることのお知らせをしましたら、避難していた子供たちも加わり 100 人が戻るようになりました。ただ、お知らせを出して戻ってくるまでというのは、9 月の最後の 1 週間だったのですが、学校がどんなにりした雰囲気なのです。なんでかなーと思ひました。保護者の人たちは「校長先生、大変でしたよ！」って、親は朝大変だから近くの学校に行きなさいと勧めたそうですが、子供たちは久之浜に行きたいと、ずーと親たちを説得したのだそうです。

●ここに木村さんがいらつしやいますが、お嬢さんは今の時の分にバスに乗って、学校に着くのが 8 時です。1 時間ほど乗ってきます。最



写真3 座談会の様子 / (左から) 松本さん、露口（司会）

と運動会が出来るようになりました。震度の強の地震の凄さ、活断層による地割れによる被害の大きさ大変さが分かったと思います。

●震災直後、全町自主避難ということで町から子供たちがいなくなっていました。全町自主避難が終わったのは 9 月 20 日でしたのでそれまでは町に子供がいなかった状況でした。その当時、線量が高くて 200 シーベルト位ありました。

●9 月 1 日からいわき市の学校が再開しましたが久之浜では再開されず、久之浜第一小学校はいわき市の中央にある中央台北小学校を借りて再開することになりました。その年の予定では久之浜の約 80 名の子供たちが生活する予定だったのですが、遠くに避難する子供達がいって、9 月 8 日の開校したときは 120 名でのスタートとなったと聞いております。

●避難先の学校では、教室はすでに埋まっていますので会議室を借りて 2 学級一組の生活で、9 月 1 日に赴任した時にはキツキツで暑くて大変でした。更にびっくりしたのは保健室に来る子供たちが一日に 100 人、ノートに書ききれないほどでした。理由は何かという、みんな気分不快ということ。僕はこういう事かなと見てみると、子供たちはトイレに行くのもその学校の児童の後ろに並び、大好きな休み時間の校庭では、その児童たちが先に場所を決めた後に遠慮がちに、その隙間で縄跳びなどをして遊んでいました。その学校ではとてもよく

毎年、久之浜では 5 月の連休に祭があり、お神輿の巡行、こどもの練り歩きがあります。これは遠景から見た海岸（写真 2）で、ここに元々、古い堤防がありましてこれに重なる形で新しい堤防が出来ますので、将来は町から海が見えない状況になるのかなと思います。昔は、漁師の皆さんがお神輿を担いで海に入って、とても賑わっていました。

●町の唯一の久之浜第一幼稚園も今回建物は被災しましたが、幸い人的被害はありませんでした。建物解体されたので、子供たちは関連の幼稚園にお世話になっている状況で、近いうちに再開したいと思っております。

津波の後の火災がありました。建物の破壊された可燃物・木材が浮かんでいる状況で、水に囲まれていたのです。プロパンガスが爆発する音が聞こえてきましたから、それから引火してしまふとあつという間に火が広がります。消火栓はガレキで覆われ消火活動が出来ません。消防隊の人たちも燃えるに任せ、見ているしかありません。また、次の津波警報などが出され避難せざるを得なく、活動の中止で更に火が広がりました。

●この地域には 500 人もの住民の方がいます。津波の被害は地区の一部でした。非難するには問題はなかったのですが、その後の原発の事故で、家がある人もすべてこの地区から避難しなければならなくなりました。

●露口 震災後、松本先生は赴任されたわけですね。いわき市には小学校は幾つありますか。

●松本 その年の 8 月から久之浜第一小学校に赴任しました。いわき市には小学校が 12 校、中学校も合わせて 12 校あります。久之浜大久地区では小学校 2 校、中学校 1 校があります。震災前は久之浜第一小学校は 250 名、第二は 200 名、中学校は 100 名おりました。（写真 2 b の左側の地区回り）ここに 100 棟の家がありました。そして崩壊してガレキとなった景色、そして幼稚園。これは久之浜の学校ではないのですが、地震で校庭がグラウンドキヤニオンのように幾つもの段差が出来てしまいました。これを復旧するのは大変で、今年の 5 月まで掛かってやっ

初ちゃんと起きるからって家の人に約束するんです「朝早く起きます、お勉強もします、宿題もちゃんとします」と。でも嘘ばかり(笑)。想いと現実はそのいかなかったのですが……。

子供たちは何とかして学校に戻りたい、自分の学校で心置きなく走り回りたい、という気持ちで親を説得し、親は子供たちに賭けて従ったと言っていました。

ここに木村さんがいらつしやいますが、お嬢さんは今の時の分にはバスに乗って、学校に着くのが時です。一時間ほど乗ってきます。僕は忘れもしない10月2日、学校再開の日に、地元の子供が先に学校に来ていて、校庭からスクールバスの子供たちが来た時に「おかえり」って迎えてくれました。その日の職員会議で僕は先生方方難うと言いました。どんな大変な時でも子供たちのことを考えてやってくれたので、子供たちは学校が楽しい、友達といるのが楽しいと思つて戻つてきてくれました。この子供たちをこれからも大事にしようね、その日は先生方にお話ししました。

露口 本当ですよ！、そういう学校だと戻りたいですね。先生は何人いらつしやるのですか？ハイタッチで子供たちを迎えられたと聞いているのですが……。

松本 全部で28人です。

露口 ハイタッチで子供たちを迎えたと聞いているのですが……。

松本 一時間ちよつとぐらいバスに乗っていると、ほとんど眠っているんですよ。おはよう。つて声を上げると眼を覚まし、下を向いていても挨拶の声は出来るのですが、顔を上げて学校に入つて来るように、(ハイタッチのように)手を合わせて迎えました。

栗田 僕はサポートチームで学校に行く度に、松本先生が子供たちと一緒に遊んでいるのを見ていました。どっちが子供か分からないくらいです。

それがとても印象的で、僕の年でもなかなかあんなふうに遊べないなと……。駆けずり回っているんですよ。相撲場の周りとか……。あともう一つ印象的だったのは、浜風商店街に行つ

発の方に向かつての北限が久之浜まで訪れたのです。ここが行き止まりだったのでした。ここからその復元模型を作ろうという事になり、デザイン学院と学生達が一緒に模型を作りました。その後作つたままでも何とせずに学校に置いてあった訳です。そしてある時、基氏が写真撮つてツイッターに載せましたら、いわきの人が見て、「それは久之浜ですよ」って、ツイッターで返事が返つてきて、その復元模型を久之浜に持つて来てくれないうか、という話があり、関係が生まれました。

露口 その模型を持つて来てくれませんか、という人が小澤洋平さんですか。本日お見えではないのですが……。

栗田 そうです。いわきにお住いの小澤さんは、震災直後のガレキ撤去の際にサポートされていた方で、久之浜の出身ではないのですが、友人を連れて週末や時間の空いている時に、進んで久之浜のガレキの撤去の活動をして、ここに愛着を持った方です。

露口 (サポートチームのプリントを見て) お隣の遠藤諭さんという方はいわきの方ですか。

栗田 今も久之浜で建具屋さんをやっています。露口 このメンバーはほとんど学生さんですか。栗田 ほとんどという訳ではないです。建築関係の社会人が割プロジェクト毎にリーダーを立てて、そこに興味がある人が集まり仲間を増やしてゆくという形で、今、総勢で200名を超えています。

実は皆は深層心理で、東北の震災に対して何も出来ない自分に、見えない力で苦しめられた様な所があったのだと思います。自分出来ることは何か、では自分が何か企画を出せば何か出来るということが、結果としてサポートの輪として広がって行つたんだと思います。

露口 実際どのようなサポートをしていたのか見せていただけますか。最初のワークシヨップの奉賛祭とはどのようなものですか？。木村 震災当初から、若いボランティアの人達が集まつてきてくれば、そういった方と地元の諏訪神社の若い方と力を合わせて復興をめ

写真⑧ 震災後、夏のプールへ (2014年7月)
(下) 除染作業中。
(左) 3年ぶり念願のプールへ。夏はプールだね。



写真⑨ 久之浜にてサポートチームが最初に行ったワークシヨップ (2012年10月)。
現地の方々の思い出を付箋に書いて地図上にマッピングしていく。

ざすような、そして鎮魂の意味もあるんですね。奉賛祭にはそういった意味で犠牲者の方の「追悼」でもあり、「花火大会」であります。

2012年の震災の年にやり、これが2回目だったのです。今は奉賛祭は違った名となり「復興祭」という名前に変わりました。

濱中 私が奉賛祭でワークシヨップをやらなかったいわれ、元々、東京デザイン学院の建築の学生として基さんと出会い一緒にやってみよう、誰かワークシヨップをやらないうかと話されました。そして学生の中から有志3名がいて、社会人の建築家の方々も含めて実現しようという事で進んでいきました。

その中一つで、私がプロジェクトリーダーを務めたのが「おもいでカフェ」というものです。この久之浜でワークシヨップをやるうとしても、自分がやりたい事で本当に良いのだからかと思つたんです。その時点では久之浜の事がよく分からなかったで、それでもツイッターとか、小澤さんのネットワークだったりとか、現地でお会いした遠藤さんとかの縁から、まず町の事を知ろうということで、ヒヤリングのワークシヨップをやつてもらいました。

(映像を見て) 木製の机の上に50分の一の久之浜の地図が描いてあります。お祭りの時には皆なが来ますよね。その中に出版ブースとして、これを置きました。そして来た人は机の上の地図を見ながらいろいろ思い出話をします。つまり私たちが知りたいのは震災前はどんな町だったのか。ここに元々根付いていた文化を知り、その上で何かできるかもしれないと思つた訳です。そこで現地の人たちにインタビューしていつて、その場で聞いた言葉を、当日来ているサポートメンバーがメモを取り、付箋を地図の上にマッピングするというワークシヨップをやりました(写真⑥)。

このように個人的な思い出が集まり、昔の写真なども一緒に明示し一緒にコメントなども書きました。非常に単純なワークシヨップでした。露口 濱中さんのパフォーマンスとの関係は？。濱中 この事とパフォーマンスも同じように繋がっています。2012年にこのワークシヨップ

た時に、ふらふら歩いていると子供たちが、「こんなにちは、何しに来たの？」と声を掛けてくれるのです。多少人見知りの所はありますが、東京ではほばない感じだなーと思いました。

露口 木村さん、お嬢さんが通つていますが、震災後どんな感じだったのですか。

木村 私の娘は半年くらい実家に居たのですが、学校が再開されるタイミングで5月に久之浜から5キロぐらいの所に戻り、そこからスクールバスで通いました。私はここが母校なので、どうしても娘は自分の学んだ学校に通わせたい、という事がありまして小学校一年ですから親の判断で決めました。

確かに朝早くバスに揺られて、最初の頃は疲れていたようですが、子供は順応性が高く、今は元気に通っています。でも、バスでの一時間余りはロスなのかと感じ、友達との会話もあるでしょうが、正直、本当は自分が送つて行つて、親と会話した方が良いのかなとも思います。

早く公営住宅など出来、地元に戻れば歩いても行けますので、それまで頑張つていなければと思います。

松本 学校を再開した時にびっくりした光景がありました。先ほど町から子供たちが消えたというお話をしましたが、子供たちの声を聴きにおじいちゃん・おばあちゃん達が学校に来るんですよ。休み時間に、子供が、校長先生、変な人がいます」と言うんですが、近所のお爺ちゃんやお婆ちゃん達なんですね。運動会の練習とか、授業参観・発表の時とか、町の人皆さんに知らせていたのですが、多くの人たちが子供を見に来てくれて、今まで以上に沢山の大人たちが、子供たちが頑張つていて姿を見てくれるようになりまして(前頁・写真④)。

露口 子供たちの姿は、本当に私達も元気にしてくれそうです。

松本 学校は再開しましたが、実は出来ないことが沢山ありました。全部放射能の影響なのですが、プールも普通に掃除出来ませんでした。子供に掃除させるな、高い線量なので保護者のお母さんたちにも手伝つてとは言えませんが、専門の業者に除染をしてもらい、やっと入れる

をやりました、2013年もとにかく久之浜に係わつていこうという事になり、2014年になつてから、ようやく何かもう一つやらなきゃと思

い、先ほどのパフォーマンスを始めました。

露口 これも一つのワークシヨップですが、他にもあります。

濱中 あと2つありますが、その中一つをご紹介します。

本日お越しのサポートチームの森田さんがされた「久之浜ってどんな浜」があります。これは久之浜の防災計画に合わせて、久之浜をどんな浜にしたいのか、どんな浜になつてゆくのか。そこにどんな選択肢があるのか分からなかった、と伺つております。防災緑地ってあるけど、どうしたら良いのか、どんなものが出るのか分からないということで、建築の学生が中心になつて、防災緑地にどんなアイデアがあるのか考えて、4つの提案を出しました(写真⑦)。

(映像を見て) 画質が悪いですが、現地の花の浜エンドウの花畑、これを防災緑地につけてゆくと、デッキを作り桜の木を植えたらどうかとか、また、竹林を作つたらとか、商業施設に防犯展を作るとか、4つのアイデアを出しました。そして、ちよつとした装置の覗き穴を作り、そこから子供たちが覗いて一番良い物を選んで



写真⑦ 久いわき市立久之浜第一小学校と連携したワークショップ/テーマ:「久之浜防災緑地について考えよう」。子供達は楽しんで自分たちの町の未来について真剣に議論した。

ようになりました。プールはこのようにきれいになりましたが、実は先生方で一週間掛かつてプールを塗つたのです。子供たちにとっては3年ぶりに入りますので、きれいにしようと、夕方の時になつてからライトを点けてペンキを塗っていると、近所の人たちが手伝いに来てくれるのです。「何やってるのー」って、プールを塗っているんですよ。でも、プール再開の年は、約20名ぐらいの子供たちは、放射線が心配だからとプールに入るのを拒否しました。それは子供たちというよりも親御さんが心配したのです。そしてその20人には、プールの時間は職員室でドリルの勉強をさせました。

次の年、昨年なのですが、プールに入らない子は誰もいませんでした。これもきつと、自分たちで親を動かして、自分たちは入りたいと言つて説得したのでしよう。私は、子供の力つてやっぱりすごいなーと思いました(写真⑧)。

露口 学校が楽しいという……。

松本 先ほど、木村さんが言われたように、一時間かけて学校に来てくれる子供たちには、学校にいる時間の0時半から0時半までは、この学校にも負けない楽しい時間にしてあげたいと思つて、先生方と一生懸命、いろいろなことに取り組んでいます。

栗田 こういう子供たちは、すごく良い印象。思い出を学校に持つて卒業する訳で、これが町づくりの根幹なのではないかと思つています。学校に愛着がなく、仲間も面白くなくて日々でいらしていただいたら、将来絶対その町に戻つて来たくないと思ふんですよ。その中で想いを持つて、時間を掛けて久之浜に通学する子供たちに対して、最大限の誇りと愛情を与える活動に、非常に感銘を受けました。

露口 次に、町づくりサポートチームのお話を伺います。

栗田 共同代表をしている建築家の基が東京デザイン学院・建築学科の非常勤講師をしていました。実はその先生の一人が震災後すぐに福島に視察に行き、先ほど少し話がありました。が、その当時の北限、つまり東京から福島

もらつて、皆んながどれが良いかを調べるワークシヨップをしました。

栗田 今、子供たちが映っていますが、半分のや0分の5ぐらいは大人たちだったのしょうか。皆さん真剣にみて、こういうのは嫌だとか、選択肢の中で選んでいました。

松本 先ほどの模型を見ていて、あのまま何処かに置いておくのはもったいないと思ひ、学校に貰えないかという事がキッカケとなり、お話が始まったのです。

実は、震災で何かお手伝いが出来ないかなと思つていました。どうせするのなら、困っている人達にしたいですよ。津波で家がない人や、放射線避難している人とか。僕は校長として学校に来て、先ほど申しました様に、最初に久之浜に戻つた20名の子供たちには何も無いんです。避難先で集合住宅にいる人々には東京などからいろいろなボランティアの方が来て助けたりにしているのですが、覚悟して地元に戻っている人たちの所には誰も来ないということがあり、この子たちに、地元に戻つて良かったなーと思わせたいという気持ちがついつと胸にありました。幸い、サポートチームの皆さんと一緒に机を囲んで、「何か出来る事は有りませんか？」という事だったので、子供たちが楽しい事をやつていただけたらいいな、学校はいくらでも貸しますから」という事で始まりました。

最初は「豆まき」でした。デザイン学校の友達なので、素敵なお面を作ってくれるのですが、それだけでは子供たちは楽しくないのです。やっぱ、そこにお菓子があつたり、実際に豆まきしたりが必要です。デザイン・建築の方々は図面で画いてキチツとやるのでお面作りは上手なのですが、楽しい会にするのはなかなか難しいのです。

栗田 お前ら！楽しくできなかったら二度と使わせないぞ！、と松本校長に脅迫をうけていました(笑)。それが一月の20日でした。ちょうど一番近い2月6日がたまたま節分でした。それだつたら鬼が必要という事と、楽しくしようと考え、単に鬼の絵があつて、そちらに豆を投げるのではなく、自由な組み合わせで鬼の顔を

作れるようにし、お面作りも楽しいものにしました。それらの合間で模型作りへと巻き込んでいきました。どこが自分の家とか、どこで楽しい思い出があったとかを話ながら。

松本 サポートチームにお願いした事の一つに、「子供たちにとつて」今しかできない久之浜の良さを知らせたいということで、確かに津波でも無くなってしまうけど、星の観測会をやりました。この時はとても寒かったのですが、星空がきれいに見えるので、星空の観測会をやりました。ここでも地元のボランティアの皆さんと一緒に、体と心の温まる企画をしました。

栗田 婦人会の皆さんがとても楽しくやっていただいて、とても助かりました。

露口 次に神社のお話ですが、若者たちが神社の冊子(当日会場配布)を作ったのは意外でした。2013 年 4 月に私たちが久之浜に行つた時に、5 月の連休に神輿を担ぎに行くこと話してくれましたね。

栗田 最初、神社について考えるというキツカケをいただいたのは町の宮司さん。諏訪神社・久之浜総鎮守の高木宮司さんでした。この宮司さんが久之浜の神社をすべて管理しており、2013 年の 5 月に、先ほどの昔の写真で見たような合同神幸祭をしました。

露口 震災後、2 年が経ち、ようやく合同神幸祭で神輿担ぎが出来るようになりましたが、宮司さんは担ぎ手を心配しているようでした。人が来るのか戻るのが、祭の為に来られるだろうか。良い知恵はないですかと質問されました。我々は地元の人間ではないし、東京から来た人間にどういう事ができるか、そこで考えました。何故お祭りをしなければならぬのか、何故お神輿を担がなければならないのか…。

実はそこがはつきりしてくと、地元の人達も意味を理解したことで参加してくれるのではないかと考えました。お祭りの為だけに、避難している人達も久之浜に戻って来てくれることだとして有り得る訳です。それではそのルーツを探る本を作ってみよう、という事から冊子作りが始まりました(写真⑧)。

栗田 最初、神社について考えるというキツカケをいただいたのは町の宮司さん。諏訪神社・久之浜総鎮守の高木宮司さんでした。この宮司さんが久之浜の神社をすべて管理しており、2013 年の 5 月に、先ほどの昔の写真で見たような合同神幸祭をしました。

露口 震災後、2 年が経ち、ようやく合同神幸祭で神輿担ぎが出来るようになりましたが、宮司さんは担ぎ手を心配しているようでした。人が来るのか戻るのが、祭の為に来られるだろうか。良い知恵はないですかと質問されました。我々は地元の人間ではないし、東京から来た人間にどういう事ができるか、そこで考えました。何故お祭りをしなければならぬのか、何故お神輿を担がなければならないのか…。

実はそこがはつきりしてくと、地元の人達も意味を理解したことで参加してくれるのではないかと考えました。お祭りの為だけに、避難している人達も久之浜に戻って来てくれることだとして有り得る訳です。それではそのルーツを探る本を作ってみよう、という事から冊子作りが始まりました(写真⑧)。



写真⑧ (上)「まちと神社」宮司さんとの打合わせ。久之浜の祭りをどのように継承していけばいいのか話し合い、冊子「まちと神社」の制作が開始(2013 年 4 月)。後にキッズデザイン賞を受賞する。(右下) 祭りの神輿。(下段) まちと神社・冊子と活動レポート

露口 木村さんは子供の頃からお神輿を担いでいたのですか。

木村 ええ、これは大人神輿で大きなものですが、各地区に子供会がありまして、そこに子供神輿がありましたから、地区に住んでいれば子供の頃から担いでいます。(映像を見て)これが子供神輿で昨年のものです。

松本 子供たちは避難先から駆けつけて、子供会で皆楽しく担いでいました。

露口 東北に来ると必ず神社が残っていたり、またそこに避難した人が助かったという話をあちこちで聞きます。これは矢張り意味のあることなのでしょうね。震災の時も、津波でも残っている。



地元の人とお話した時に気付いた事ですが、最初の写真の様に、何もなかった所に神社だけが残っていたのですから、これは神の奇跡と想うかもしれません。でもこれは祖先様が子孫、孫やひ孫、100 年後の子孫の為に残したメッセージ・手紙みたいなものではないかと感じました。神社をこのように配置すると安全とか、何かあった時にここにいきなさいとか、もちろん神社が絶対安全であるとは言いきれませんが。

久之浜がかつて震災などに遭った経験から、今回の様に全部無くなった時に、改めて神様をどこに置くのかを悩み、その上で配置されたのではないかとこの事が透けて見えたような気がしました。

子孫へのラブレターのようなものを昔の人は神社を使って伝えたのではないのでしょうか。だから、今回の震災の後、これからの人達に贈る手紙を書くのは皆さん、久之浜に居るあなた達ですよ、と気付いてもらいたかったのです。

今、それをどのように考えてゆくか、言葉に頼らなくてもまちづくりを通して考えられるのではないのでしょうか。

露口 キッズデザイン賞を受賞された防災緑地について説明していただけますか。

栗田 先ほどの神社プロジェクトもキッズデザイン賞をいただいたのですが、防災緑地の方は、更に復興デザイン部門のキッズデザイン協議会会長賞をいただきました。これはサポートチームというよりも子供たちが獲った賞なのです。校長先生のご協力の賜物です。2013 年の 1 学期の金曜日の、限の 1 回に亘つて、久之浜第一小学校で防災緑地ワークショップをしたという校長先生のご



久之浜防災緑地について考えるよう

希望で実施となりました。

松本 学校の計画で、次年度の教育をどのようにするかとなり、一歩踏み込んで、子供たちにこれからの町の事を考えさせたいな、この防災緑地が出来る前に、今しか出来ない事をしたい。こうして先生方と話合つて防災緑地について考える授業を計画しました。

これは大漁旗なのですが(*当日会場の壁に配置)、実は震災の年の夏休みに宿題として子供たちに描かせたものです。5 年生は水産業の勉強をします。今、久之浜では船が出せませんが、出せたときに掲げる旗を作ってくれないか、考えよう!という事で、この 1 点は一番良い賞をもらったものです。これを奉奠祭の時に、子供たちからの主張として大人たちに叫びました。「久之浜で漁が出来るように頑張ってください」と伝えたのです。実は、大人たちは「どうしよう、どうしよう」と言うだけで、こうしようというところまで思いが行きませんでした。そこで子供たちが、僕たちも海が好きだから僕たちの為に漁をしてよ!って大人たちに投げかけました。今、子供たちも一緒に生きていくのだから大人たちと共に、新しい自分たちの町について考えたい、それがこの防災緑地の学習です。こうしていろいろな子供たちが皆んなで考えるのですが、例えば私の様に気の小さな人は、栗田さんの様な強い人に負けちゃうんですよ。でも、その小さな気さくで大事ですよ。そばにいて、君、それ良い考えだよ!」って言うてくれる人がほしいな!と思った時に浮かんだのがサポートチームの皆さんの事です。最初は金曜日の日中に仕事があるのに来てくれる人がいるのかな!と思ったら、いっぱい来てくれて、すごく良い学習になりました。

栗田 金曜日の午前中というのは、普通の会社員では無理でして、学生も授業があります。誰が出来たか考えた時、建築事務所を自分で主宰している若手の建築家、そういう人たちに声を掛けましたら毎回 10 名ほど来てくれました。

松本 来てくれた人には特典があつて、子供たちと一緒に給食を食べるんです。約 1 週間か月

希望で実施となりました。

松本 学校の計画で、次年度の教育をどのようにするかとなり、一歩踏み込んで、子供たちにこれからの町の事を考えさせたいな、この防災緑地が出来る前に、今しか出来ない事をしたい。こうして先生方と話合つて防災緑地について考える授業を計画しました。

これは大漁旗なのですが(*当日会場の壁に配置)、実は震災の年の夏休みに宿題として子供たちに描かせたものです。5 年生は水産業の勉強をします。今、久之浜では船が出せませんが、出せたときに掲げる旗を作ってくれないか、考えよう!という事で、この 1 点は一番良い賞をもらったものです。これを奉奠祭の時に、子供たちからの主張として大人たちに叫びました。「久之浜で漁が出来るように頑張ってください」と伝えたのです。実は、大人たちは「どうしよう、どうしよう」と言うだけで、こうしようというところまで思いが行きませんでした。そこで子供たちが、僕たちも海が好きだから僕たちの為に漁をしてよ!って大人たちに投げかけました。今、子供たちも一緒に生きていくのだから大人たちと共に、新しい自分たちの町について考えたい、それがこの防災緑地の学習です。こうしていろいろな子供たちが皆んなで考えるのですが、例えば私の様に気の小さな人は、栗田さんの様な強い人に負けちゃうんですよ。でも、その小さな気さくで大事ですよ。そばにいて、君、それ良い考えだよ!」って言うてくれる人がほしいな!と思った時に浮かんだのがサポートチームの皆さんの事です。最初は金曜日の日中に仕事があるのに来てくれる人がいるのかな!と思ったら、いっぱい来てくれて、すごく良い学習になりました。

栗田 金曜日の午前中というのは、普通の会社員では無理でして、学生も授業があります。誰が出来たか考えた時、建築事務所を自分で主宰している若手の建築家、そういう人たちに声を掛けましたら毎回 10 名ほど来てくれました。

松本 来てくれた人には特典があつて、子供たちと一緒に給食を食べるんです。約 1 週間か月

間毎週末でもらい最後には子供たちと仲間の様になりました。

露口 11 歳の年生ですか。これは大人のワークショップ?

栗田 大人に対しての防災緑地ワークショップは県の主催で、これはこれで進んで行きそうだなと思いましたが、せっかく将来を担う子供たちがこういうことを考えようとしているのですから、校長先生を筆頭に、何か発表できる場所がないといけないのではないかと大人のグループにお話して、大人のワークショップの最後の日、学校の 1 学期最後のギリギリの時間に体育館を使わせてもらって、子供たちが自分の声で、自分のスケッチで発表することになりました。

いたどの地区に行っても復興に関する会議は地元の区長さんや年配の方がやっていますから、その意味でも子供たちの参加には大きなメリットがあつたな、と感じています。

露口 子供たちに未来を描かせるというのは割とやっていることですが、その実現化の方向になったのは、毎週毎週通つて給食を食べさせてもらったお陰ですね。

栗田 (笑) ここに関係した人達サポートチームを含めてほとんどの人が大人のワークショップと子供のワークショップの双方を見ていました。そして明らかに子供にしかない視点、大人が気付かなかった部分を使う場合があつたのです。幼稚園の事を言ったのが、たまたま私が担当のグループだったので良く覚えております。

最初、子供たちが何を言つたかというところ(防災緑地)で動物を飼えないかとか、ここに広場がほしい、と言うのです。私には子供たちがなぜそのようなことを言うのかよく分かりませんでした。ですから直訳で受け取るのではなく、その奥にある本意を探るように子供たちと話し合いました。



ションショーをしたとの事ですがそれは?。

栗田 この会場に久之浜コレクションのプロジェクトに係わったプロジェクトリーダーが来ています。これはサポートチームの中から自発的に出た案で、「次は服作りワークショップのようなものを作りたい」という話が出てきて、「きつと子供たちが喜ぶのではないか、それは良いかもしれない、やってみよう」と進みました。でも、サポートチームとしてはこれを通して町を好きになつてもらいたいし、これをかなえるにはどのようなアプローチの仕方が良いかな?と議論を重ねました。サポートチームとして久之浜の良い写真を撮りためていたの、ここから自分の好きな写真を一枚選び、「久之浜の風景に似合う服を作りましょう」という事になりました。こうすれば久之浜に対しての思いと愛着を持つのではないのでしょうか。

服を作っただけではつまらないので、ちゃんと発表する場を作ろうという事で、演劇出身の MC の方を連れてきて、バックでは DJ を付け



写真⑨ ファッションショー。子供たちと一緒にオリジナルの服をつくる。(右) ショーの前でポーズ。(左) 久之浜の風景写真の前でポーズ。

【座談会を終えて】第二回 久之浜編
人と人の小さな縁から、若い人・仲間達がサポートチームというカタチで集結し、行政に係ることなく自然に融合した実例のように思う。ここに關与した若者の行動、心をふるいたたせた想いは何だったのか、その見えない部分を必ず記録に残しておいて欲しい。それはこの国に生まれた私たちの宿命として、おそらくは誰もが遭遇し得る事、想うだろう事として。

(編者)

木村 この頃、私は議員でしたので大人のワークショップに参加しました。校長先生がおつしやった様に、子供たちの良い点というのは、例えば大人たちが並木道を作りたい、ここに素晴らしい公園を作りたいという、君、何を言っているんだ。相当のお金が掛かることだ、として話が消えてしまふんですね。しかし子供から出てくると、役所の職員もさすがに無下には断れないんです。ある意味、子供たちの立場とお母さんの純粋な意見を活用して行政と結び付けたというのは他の地区にはありません。だ

露口 次は久之浜コレクションというファッ

ションショーをしたとの事ですがそれは?。

栗田 この会場に久之浜コレクションのプロジェクトに係わったプロジェクトリーダーが来ています。これはサポートチームの中から自発的に出た案で、「次は服作りワークショップのようなものを作りたい」という話が出てきて、「きつと子供たちが喜ぶのではないか、それは良いかもしれない、やってみよう」と進みました。でも、サポートチームとしてはこれを通して町を好きになつてもらいたいし、これをかなえるにはどのようなアプローチの仕方が良いかな?と議論を重ねました。サポートチームとして久之浜の良い写真を撮りためていたの、ここから自分の好きな写真を一枚選び、「久之浜の風景に似合う服を作りましょう」という事になりました。こうすれば久之浜に対しての思いと愛着を持つのではないのでしょうか。

服を作っただけではつまらないので、ちゃんと発表する場を作ろうという事で、演劇出身の MC の方を連れてきて、バックでは DJ を付け

【座談会を終えて】第二回 久之浜編
人と人の小さな縁から、若い人・仲間達がサポートチームというカタチで集結し、行政に係ることなく自然に融合した実例のように思う。ここに關与した若者の行動、心をふるいたたせた想いは何だったのか、その見えない部分を必ず記録に残しておいて欲しい。それはこの国に生まれた私たちの宿命として、おそらくは誰もが遭遇し得る事、想うだろう事として。

(編者)

避難指示区域 概念



豆知識 シーベルトとは

シーベルトとは、放射能の人体への影響量を表す単位です。

土壌のタイプなどによっても異なりますが、一年間に浴びる量は世界平均で年間 2.4 ミリシーベルト 基本的に原発事故などで一般の人が浴びる放射線量の限度は、1 ミリシーベルト / 年と定められています。

0.1 マイクロシーベルト / 時間 を越えた場合は、原発事故の影響が出ていると考えられる
(国内制度及び ICRP 勧告より)

- ・ 古道小学校 0.15 マイクロシーベルト / 時
 - ・ 三春清掃センター 0.29 マイクロシーベルト / 時
 - ・ 郡山市役所 0.21 マイクロシーベルト / 時
 - ・ 新幹線郡山西口広場 0.25 マイクロシーベルト / 時
 - ・ 東京 / 長崎 0.04 マイクロシーベルト / 時
 - ・ 熊本 / 広島 / 大阪 0.05 マイクロシーベルト / 時
- (H50 cm測定・福島県ホームページより)

マイクロシーベルト / 時 の単位では一見少なく感じますが、問題は累積する事、累積被曝量なのです。

3. 11 以降～東北の文化を考える～

三地域横断座談会『なぜその地に居続けたいのだろうか?』

平成 26 年 11 月 28 日 (金) 田村 編

ご挨拶

震災では一人として亡くならず、一軒の倒壊もなかった。「私達はこの災害を 3.11 ではなく 3.12 と言う」と語ったのは、都路を案内してくれたホットハウスの渡辺さんだ。
今年 4 月に避難解除になった都路地区は、晩秋の光景に黒い袋が点在しなければなんと美しいことか・・・三年間の空白 ボランティアも住民もいない・・・20 キロ圏 30 キロ圏の問題からの地域社会の亀裂。全てがこれからのスタートだ。「元通りになっただけでは都路地区は消失するだろう。」お会いした方々の共通した重い言葉の意味を伝えたい。災いをお人形さまに託し、ニッパツパの都路地区にまた火の灯ることを願って。

情報文化部会部会長 坂上直哉

石巻訪問と前後して、福島県田村市の小さな地域に残っているお人形様の衣替えが、部会で話題に出たのは 2 年前でした。高さ 4 メートルもあると聞いて、現地へとなり、昨年 4 月の第 3 日曜に伺いました。雪が降った後のため、風が冷たい二日間でありました。

一見何もなかったかのように見える緑豊かな里山、田村市は、原発 20, 30, 40 キロ圏内のそれぞれの地域を抱えています。避難、仮設住まい、除染、風評被害と声に出せない苦しみの中でも、地域の行事や祭りは淡々と行われています。本日は、福島県田村市で、文化に携わるお二人と、避難を余儀なくされ復興に率先して携わっている方から、3.11 後の地域の様子を伺います。

出演者紹介

渡辺辰夫 (ワタナベ タツオ)

福島県田村市都路でフレンチレストラン・ホットハウス経営。震災後船引町に移転。都路商工会会長として町の復興に尽力。

逸見克己 (ヘンミ カツミ)

福島県郡山出身。考古学協会員として主に田村市の遺跡調査に従事。田村市役所勤務。郷土歴史編纂。

上遠野伸一 (カトオノ シンイチ)

福島県田村市船引町出身。田村の魅力伝えようと郷土写真家として活躍。田村市教育委員会勤務。広報写真多数。

吉野ヨシ子 (ヨシノ ヨシコ)

福島県田村市船引町出身。千葉県在住。田村市夢大使。小学校教師を経て金属彫刻に携わる。情報文化部会メンバー。

坂上直哉 (サカガミ ナオヤ)

情報文化部会部会長。美術家。アートワーク空主宰。

露口典子 (ツググチ ノリコ)

田村座談会司会・進行係。情報文化部会副部会長。文化環境プロデューサー。アートアソシエイツ八咫主宰。

主 催：一般社団法人 日本建築美術工芸協会 調査研究委員会情報文化部会

メンバー：織部製陶株式会社 菊川工業株式会社 中村ブレイス株式会社 株式会社社平和合金 株式会社ベクトル 安井建築設計事務所
協 賛：坂上直哉 (部会長 露口典子 (副部会長) 高橋圭太郎 立松直樹 中川一人 中村仁美 藤田益一 吉川盛一 吉野ヨシ子

開催協力：小野行雄 七字祐介 南三一郎 (調査研究委員会調査研究部会)

参加者：48 名 (出演者：6 名 招待者：3 名 協賛：2 名 参加費支払者：36 名 学生：1 名)

2011(H23)

「帰っぺ都路運動へ」

- 3.11 震災
- 3.12 都路地域全域に避難指示
- 3.22 都路町商工会を船引町商工会館内に移す
- 4.13 福島県商工会連合会に 13 の商工会会長集まる (東京電力に補償要望書)
- 4.22 半径 20 キロが警戒区域、それ以外の地域が緊急時避難準備区域に指定
30 名 (市長含) で民主党対策本部、自民党本部、経済省、東電などを回る
- 5.18 衆院予算委員会に招かれ中小企業者の実情を話す
- 6.01 東京電力から都路町商工会に賠償説明 (社員 2 人常駐に)
- 13 都路町商工会総会開催 (40 名)
- 28 経済産業省の視察 (グループ補助金検討依頼)
- 30 都路町商工会会員の 9 割強が賠償申請終える
- 9.30 緊急時避難準備区域が解除・・・20～30 キロ圏の住民帰宅可能に

2012(H24)

- 2.27 「ふるさと復興組合」設立
- 4.01 半径 20 キロの警戒区域が避難指示解除準備区域に再編
「帰っぺ都路運動」を始める
- 8.25 船引にてレストラン「ホットハウス」再開
- 10.06 都路復興コミュニティセンター「結」オープン

2014(H26)

- 4.1 都路町の避難指示区域解除
- 4.6 古道地区と岩井沢地区に Domo がオープン

文化は生きる糧である

文化は、人と人が伝えあってきて今日に至っているものであると思います。その文化を何かと深く考えたことはなかったのですが、32以降情文にて話し合われるようになって、考える機会に恵まれたことに感謝しています。地域に残っているそれぞれの文化は大小さまざまありますが、いずれにしても、大切な人と人の絆によって守られてきたものだと思えます。

このような、絆文化を私達は守っていかなければならないのですが、私が出会った原発事故による避難された地域の一つである、福島県田村市都路地区は過疎化が激しいスピード進み、昔から伝わってきた祭りなどが失われつつあります。これは都路地区だけでなく全国的な問題であることもわかりました。これを防ぐには、国や地域だけでなく私達が協力できるところを見つけていく必要があると考えました。AACJAに期待するところが大きいと思われました。

吉野ヨシ子／彫刻家(会員)

「何故……故郷を目指すのか」

福島県田村市都路地区訪問を終えて。

『人は何故 故郷を目指すのか?』

原発での震災後すぐに避難地域対象となった都路地区は、昨年帰還可能地域になり、本年3月に訪問した時点では、故郷に戻られた方は、の割でした。都路地区の福島原発方面へのアクセス道路国道88号線沿いには、ところどころに除染処理の土が、周りの風景とは異質にすり替わっていた。

訪問した3月21日は、まだまだ春の到来を告げる草木は無く、除染処理の土を覆っている深い緑色シートだけが、車から見る景色に、被災地であるという現実を伝える手段になっていた。

都路地区は地震、津波の災害は少なく、外見上は被災地としての体をなしていない。そのことが却って原発被害の当事者しか分からない苦悩になっていると、現地を訪れて強く感じられた。

震災からの日々の積み重ねは、当事者で無い限り、記憶を押し殺す。

すでに、当事者と部外者を乖離するには、多くの時間は割かれてしまった。

こんな状況におかれている地域である田村市を案内していただいた渡辺辰夫氏、元福島県知事、佐藤栄佐久氏のお話のなかでは、大きな声だしての原発反対とか、国への強い要望は聞けなかった。ただ、故郷都路へ多くの人たちが帰還してほしいとの願いでした。

何故 故郷を目指すのか? の答えは、私は見出せない。

大田 敏彦／新製品試作会社運営(会員)



第一原発からの距離図

黒い袋を
仕分けする



田村市内の除染土置き場 (2015年3月21日)



上: お人形様
下: 道路脇に放置された除染土



里山の違和感

何か違和感が残った。

座談会の田村編の直後のことである。

自分は福島県いわき市久之浜・大久地区でまちづくりサポーターを震災後から続けているので、被災地域の方々の意見や訴えかけは比較的良く拝聴しているつもりでいた。

しかし、田村の話聞いた後は、何とも言えない不思議な気持ちとなってしまった。理由が分からず、座談会後の懇親会の間ひとり椅子に座りこみ、この正体の分からない違和感の謎を探っていた。

完全な回答ではないかもしれないが、この違和感の正体は「どうせ分かってもらえないのではないか」という「無力感」と「絶望感」から来ているのではないかと結論付けた。

久之浜や石巻では、津波や地震による被害という分かりやすい現象を目の当たりにすることができた。しかし山間地の田村にはそのような分かりやすさは無かった。孤立無援で見えない敵と戦って、疲弊している姿がそこにはあった。

分かってもらえないから、口調もどうしても強く、激しく、感情的にならざるを得ない。

田村のような場所こそ、これらの「無力感」と「絶望感」を和らげることが必要ではないか。サポーターでできることがあれば積極的に関わってみたい。

栗田 祥弘／建築家(久之浜編出演者・久之浜大久地区まちづくりサポーターチーム共同代表)

境はコンパスで区切られるのだろうか

みんな木漏れ陽を浴びて楽しそうに緑濃い森の中を歩いています。

それは「田村編」会場で流れた映像で最も記憶に刻まれた光景。

古くから伝わる地域の守り神「お人形様」の衣替え行事への路。

大きなお面の周囲に「たてがみ」のようにつけた杉の枝葉などを新しいものにする風習です。たてがみは酒蔵の杉玉のように、季節とともに緑から茶色に変化していくのでしょうか。

人と自然が織りなす祈りの芸術、アニミズムを感じます。

ムラと他のムラを結ぶ「境の神」といわれるお人形様の表情は、震災事故によって地域をコンパスで10203060に分断され今も困難な状況のなかで暮らす人たちの想いを代弁するようにひびく怒っているようにも、ムラのみんなを励ましているようにも見えました。

星 素子／言葉アーティスト(会員)

手紙 3.11 から—そして今

もしも、あの日、地震がおきなかったら……

もしも、あの日、津波がこなかったら……

もしも、あの日、……

もしも、あの日、……

もしも、あの日、正しい情報が知らされていたら……

何度も呟いた、そして交わした言葉

知らなかった。思ってもみなかった。考えてもいなかった。想像すらしていなかった。

自然災害と人災が、こんな形で突然襲ってくるなど

これほどの破壊と恐怖をもたらすことがおきることなど

人間を含む動物や植物などの生命体を極限にまで脅かすものであったことなど

しかも、推し測ることのできないほどの、さまざまな悪影響を、ずーっと及ぼしつづけることなど

いや、そもそも、死と隣り合わせの、制御不能な危険物が、自分たちの生活圏の近くにあったことなど

あの日、あの時から、いつもの時間が止まってしまった

あの日、あの時から、それまでの営みが奪われてしまった

あの日、あの時から、大切なものを失くしてしまった

どんなに努力をしても、頑張っても、渴望しても、折り願っても、解決の糸口を見つけないまま、心も体も自然も汚染されつづけて、人は誰もが強く生きていくことができるわけではない。

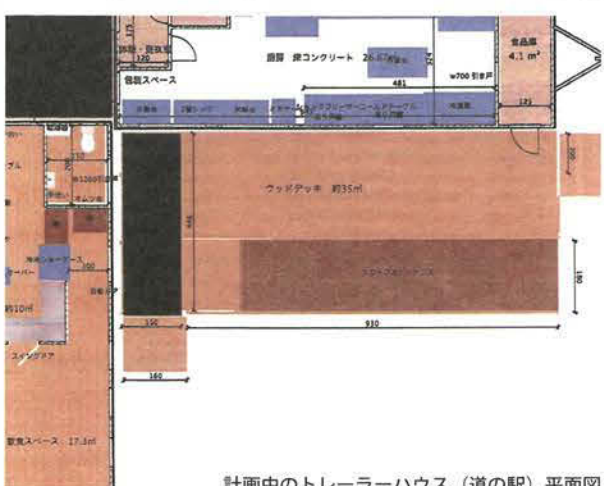
かつて生活していた地に、帰る人・帰らない人・帰れない人の一人ひとりをおもう、なんの力にもなり得ていない私は、言葉を失い、思っただけが空回りしている。

(体をこわすことのないよう、自分の命と大切な人を、大事に守って生きていってほしい。もう、これ以上無理をしないいい、それ以上頑張らなくていいから)

あの日以来、哀しみをもち私の魂は海の中の友や祖父母の地や、縁を結んだ方たちの処をさまよっている。

二〇一五年 川内原発再稼働の日に

亀倉 加久子／編集者



計画中のトレーラーハウス(道の駅)平面図

住めば都

言い訳かくす

シーベルト

六次産業化 道の駅(トレーラーハウス)

原発事故から11年目になります、少しずつではありますが復興の足音が聞こえてきた様に思いますが住民の帰還率は依然として低いままで。原発事故と震災により時計の針が1年ぐらいいきに進んだ状態(限界集落・極点社会)です、やはり若い世代の人達が生活できる環境を作り出すことがこの地域全体の活力を産み出す事に直結する訳ですから私たち「商工会」は六次産業化(*)を推進している所です。この事業には「四つの柱」があります。

・一つ目は若いお母さんの職場を創り出すこと、これにより子供達がこの地域にいてと言う事です。

・二つ目のこの事業には地元高校生主に2年生女子(20人)……が参加しており若い感覚で六次産業を考えていただき商品開発をしています。又高校生も二年後には社会人となりますのでこの事業に参加して地元に残ってくればこれ程嬉しいことはありません。

・三つ目の柱は休耕地の再利用です。商工会議所は六次産業化を進めています。現在東京の一流ホテルのシェフと共同開発しているスイーツを直接販売するためにトレーラーハウス(全長21m 巾3.5m)二台を発売し(二月には納入)都路地区国道288に直接販売店(道の駅)として開店します、そのスイーツのための食材(エゴマ、サツマイモ等々種類)……休耕地に栽培しております。

・四つ目の柱は地場産業の育成を目的として都路のタマゴを利用した六次産業化です。今まさに着手したところです。タマゴは震災前から都路にとつて唯一のブランドであり、現在でも風評被害は収まらず野菜、米は売れない……唯一のタマゴを起爆剤に上記の休耕地で生産した食材を利用しプリン、焼き菓子スイーツなど将来工場生産を目指したレシビハ品は完成しています。

現在二月・三月のトレーラーハウス(道の駅)の開店に邁進しているところです。

渡辺 辰夫／都路町商工会会長・レストラン経営(田村編出演者)

*【六次産業化】第一次産業の(農林水産業)に第二次産業の(加工食品等の製造)と第三次産業の(流通・販売・サービス)を足して「六」になることから名づけた造語である(第二次産業は主にこれまでは都市地域の役割であった)。※付加価値として、農業のブランド化、消費者への直接販売、レストランの経営などが挙げられる。六次産業は加工、流通を複合化させるという視点が明確である。

東北三地域 横断座談会 かわら版 田村Ⅱ編 Vol.3/3

「かわら版について」
このかわら版は、平成時26年11月28日、
PM時々8時半。会場は、東大向ヶ丘フアカル
ティールハウスへ階で開催された東北三地域・横
断座談会「田村Ⅱ編」の要旨をまとめ再録した
ものです。

田村の小沢の桜を背景に、
「……初恋＝オルゴールの中のラブレター」
(田村が舞台になりました)の映像が流れる
……。

【はじめに】 露口典子(司会・進行)
皆さん今晩は。前回の「久之浜」は、パフォー
マンスで幕が開きましたが、今回は映画なので
驚かれたことと思います。

今の映画は2000年の春に封切られました「は
つ恋」で、田中麗奈さんが主演されています。
主人公は「1歳の春に失恋しました。そんな時、
お母様が病気になる急に入院し、大切にしてい
いたオルゴールの中から、お母さんの初恋の人
からのラブレターが見つかりました。そこから
お話が始まる映画です。
そして映画の中では、願いの桜とありますが、
これは田村の「小沢の桜」が舞台になっています。
今日は映画が撮りたくなるような美しい風景の
ある田村で、今何が起きているのか、どんな
所なのかを皆さんと一緒に話を伺ってみよう
と思います。



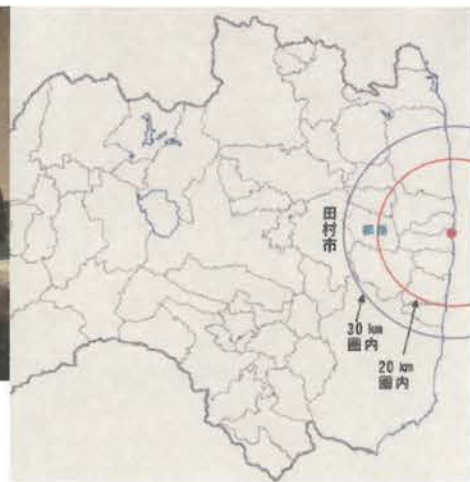
写真① 都路・岩井沢地区の田園風景 (平成 26 年 11 月 23 日撮影)

上遠野 (映像) これは今日の為に5日前に撮っ
た都路の岩井沢地区の田園風景です。遠くに見
えるのが五十人山です。懐かしい風景で、家族
みんなで田んぼの収穫作業をしているところだ
す。今も原発事故前のように田んぼで米を作っ
ているのですが、原発事故の翌年ぐらまでは
線量が心配で子供たちには会津とか県外の米を
食べさせているという人がいました。

(映像) これは希望の明かりというか、暗闇か
らこのような景色を見たかったのだ、暗いうち
から山に登りました。美しい町だと思えます。
都路の灯祭り、この最大のイベントです。
竹筒にローソクの火を点けて一番賑やかな年
でした。この次の年に原発が起きて中断し、今
やと復活しました。

(映像) これは田村名物の灯籠流しですね。
多重露光で一枚の中に発の花火を入れました。
市内では一番人が集まる行事です。
露口 そして私たちが見学した「お人形様」な
のですが、上遠野さんは広報のお仕事をされて
いたのです。

上遠野 実は、このお人形様は誰も知らなかつ
たのです。私が昭和55年に地元出身の係長さ
んと一緒に「お人形様」に会いに行きました。



図① 福島県都路地区の福島第一原発からの距離



写真② 座談会の様子 / (右から) 露口さん(進行)、逸見さん、坂上さん(部会長)



写真③ 座談会の様子 / (右から) 吉野さん、渡辺さん、上遠野さん。



写真④ 船引町「町制要覧」(昭和53年)

小高い丘の上にひっそりとしていました。お人
形様は鬼のように恐い顔をしていて、外敵
から地区を守る為に刀を差して、薙刀を持って、
両手を広げて通せんぼをしているのです。非常
に感動しました。これは地元の人しか知らなかつ
たのです。そして昭和55年の「町制要覧」に
この写真を初めて表紙に掲載すると、さまざま
なマスコミに取り上げられて有名になりました。

露口

吉野 私とも知っていませんでした。今回行ってみて
衣替えも初めて拝見しました。船引駅を降りま
すと、このお人形様が居て、何でここに居るの
かなーと降り立つ度に不思議に思い、地域しか
知らない行事だったのです。

逸見 お人形様は現在七つ在ったと言われてお
ります。その内の一つは田村市ではなく隣の滝
桜で有名な三春町に在ったようです。実は燃え
てしまつて、木で作った眼だけが残っています。

(映像) これがセリガサワですね。次が屋形の
お人形様、朴橋のお人形様、それと堀越のお
人形様、現存するお人形様はこの三体なの
ですが、他に面だけ残っています。これは田村市
の一番南端、タキネという所にあります。これ
はお人形様と言わず「天王様」と呼びます。こ
れで現在判っているのは五つです。他に大越と
いう所に「お人形」という地名を載せていると
ころがあり、ここにも在ったのではないかと。
また、中間部分のコウダイジにも在ったのでは
ないかと言われ、全部で七つになります。

(映像) 磐城街道がこのように通り、そこに在っ
たということで、磐城街道沿いの七つのお人形

露口 実は最初、私たちは桜を観に田村に行つ
たのではなく、ここに有ります「お人形様」の
衣替えの行事を見に行きました。その訳は、私
どもの会は日本建築美術工芸協会と言ひして、
様々な分野の人たちが「都市の風景を考える」
という会で、この中に情報文化部会があります。
この部会長が、坂上直哉さんです。彼は美術家、
アーティストです。私は、副部会長をしており
ます露口です。今日は進行を務めさせていただきます。
どうぞよろしくお願ひします。

私たちのメンバーの中に吉野ヨシ子さんがい
ます。彼女は、実は田村市出身で、「田村夢大使」
をなさつておられます。それでは吉野さんから、
田村からお越しの3人のゲストの方々を紹介
いただきます。

●吉野ヨシ子 田村市出身 田村夢大使、芸術家。
吉野です。今日はよろしくお願ひいたします。
最初にご紹介します。

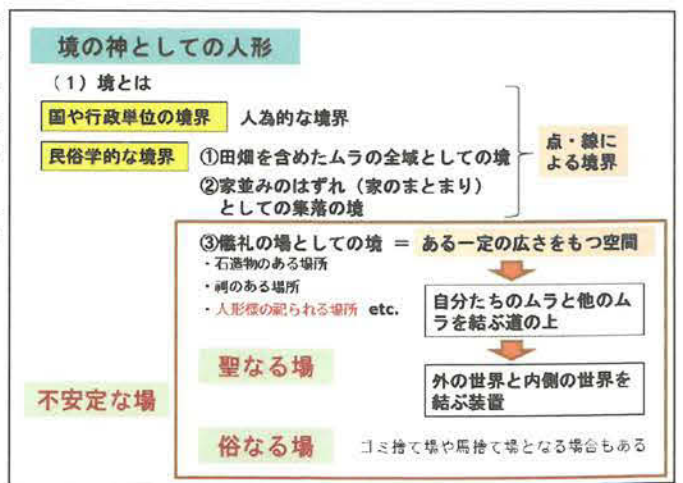
●渡辺辰夫さん(震災前は「田村市都路町でレ
ストラットハウスを運営され、現在は船引
町で商工会長として復興を支援しておられます。
続きまして、

●逸見克己さん 船引町の方で市の職員で、田
村市の遺跡の調査等をされている郷土史家です。
もうおひと方、

●上遠野伸一さん 船引町の方で市の職員で、
田村市の郷土を伝える写真家でもあります。先
ほどの小沢の桜も後ほどお話があると思います。
(映像を見ながら)



写真⑤ お人形様のお顔を囲んで



図② 村の境に設けた「境の神としての人形」



写真⑥ 3つの地区のお人形様の表現と特徴 / ①屋形、②朴橋、③堀越

次が②朴橋のお人形様です。これは先ほどの
ものとは顔が少し違います。そして少し小振
りです。金歯で非常におしゃれ、そしてヒゲが
ありません。実は他のものはヒゲがあります。従
いまして、男と女、年寄りと言ふ人もいますが、
良く見ると黒く塗つたこの部分はヒゲそのもの
であると私は思っております。メートル50セ
ンチぐらいの大きさです。

次は堀越のお人形様③です。今までのお人形
様は屋根が無かったのですがこれは有ります。
素晴らしいなと思ひますが屋根は後で作られた
ものです。実は、明治三五年くらいまでは作ら
れていましたが一度廃絶しまして、平成三年に
新しく祀られました。お面は明治時代に使われ
ていたものをそのまま使っております。ケヤキ
の一本彫りです。

お人形様の制作技法(①〜⑧・次頁)ですが、
朴橋の場合、最初に面を外します。上の髪の毛
の茶色になった杉の葉っぱは全部取り除きます。
次に衣を全部外します。一方「ヤド」といわれ
るところでは、手になる部分とか、服になる部
分をすべてワラ(藁)で編みます。他にはナギ

りまして、阿武隈高地で台地になっております。
こちら側に奥羽山脈が通つていて、ここが中通
りと言ひまして、田村市はその中に入つており
ます。
上遠野 田村市は船引町、常葉町、大越町、滝
根町、都路村の5地区が合併して58平方キロ
あります。合併当初は4万3000人いましたが、
震災後は3万9000人です。
露口 最初にお話しした田村市に来るキツカ
ケとなりました「お人形様」はどの辺なのでしょう
うか。
上遠野 「お人形様」は5ヶ所にあるのですが、
「屋形・朴橋・堀越」と、丸い点が5ヶ所あり
ますが、船引の南側です。
春と夏の写真は「小沢の桜」です。
小沢の桜は私が名前をつけ、写真を町のパン
フレットに掲載し、東京などで見た結果「は
つ恋」のロケ地になりました。
秋の写真はのんびりと親子の牛が牧草を食べ
ている様子です。
先の原発事故でこのような風景は失われてし
まいました。



写真⑦ 田村市の四季折々の風景

の人が原発建設作業に関わりました。都路もそこで働くようになって所得が上がり、当然進学率も上がりました。

卒業後、昭和 50 年に東京のアートコピーという会社に入社しました。原発が稼働した年です。配属されたのが世田谷の桜新町にある大きなレストランで、裏に製パン工場がありました。その後、横浜の新店舗の立ち上げに行き、再び世田谷に戻ってレストランに入り、帝国ホテルの技術顧問の方から帝国ホテルレジビで指導を受けました。やがて渋谷のセンター街にあるリトルマーメイドに移り、6 階のレストランで一年ぐらい勤めた頃、福島のお客から戻って店をやらないうという話がありました。私が昭和 54 年に都路に店を建てた時には、このバイパス (88 号線) 沿いに他には建物は一つもなかったのです。

露口 (映像) ここに地図がありますが、かつてのホットハウスはここですね。88 号線がこのように走り、20km から 30km の間。以前、都路がハムがあった場所ですね。そしてもう少し行くと、この辺りに渡辺さんのお宅があります。そしてペンションがあり大熊町になります。この辺まで行くと許可証がないと入れない所になります。

(図⑤) ここが第一原発、第二原発、これが 10km 圏、こちら側が川内町・浪江町です。渡辺さんのお宅は 20km 圏になります。実は私もが昨年の 4 月にお伺いした時に、たぶん川内町辺りでしょうか、通常の報道では中々見ないのでギョッとしましたが、黒いビニール袋「フレコンバッグ」(正式にはフレキシブル・コンテナ・バッグ・写真⑨) が積まれてシートが掛けられていました。これは吊れるようになっていて、汚染で出たゴミを一袋に 1 トンほど詰め込めるようです。

渡辺 ここは (写真⑩)、大熊町と都路の境のこの保管場所の様子です。

露口「最大積み上げ高さ 3.3 メートル、0.35 マイクロシーベルト/時」と書いてあります。これらのバッグは 6 年半ほど経っています。耐用年数が 5 年ですから、移動の時期になっ



次の日、店の片付けに戻りますと、店の道路 (88 号線) を大熊方面から次々に途切れることなく車がやって来ます。最初、警察官が一人来て店の駐車場に車を置き、大熊方面から来る車を近くの体育館へ避難誘導していました。ですが、あまりにも車が多く、一人の警察官ではさばききれないので私も手伝いました。そのうちに大熊町の女性の商工会長さんが私の店の駐車場に入ってきました。そして、原発が危ない初めて彼女から聞いた訳です。都路には無線や有線放送での連絡はありませんでした。露口 避難指示が出たのはいつ頃だったのですか？

渡辺 「2 日の夜 8 時頃だったと言っていました。というのは、私は夕方には既に避難してました。そして商工会を移し、100 名の会員の所在確認を始め一ヶ月半ほど掛かりました。

露口 4 月 13 日に商工会の連合会でこの商工会の会長が集まって補償問題を話し合い、22 日には警戒区域・緊急時避難準備区域が指定され、の月一日には東電から賠償説明があったそうですね。

震災日の 2 時 30 分、私は厨房に居ました。あまりに揺れが激しいので、妻と二人、外に出ました。立つて居られないものですから、駐車場にしゃがみこんだのです。パツと振り向いた瞬間に、小学校校庭の裏山が一瞬にして滑り落ちたのです。

揺れが収まって店に入りましたら、食器類はすべてダメ、200 キロのガスオーブンのボンベは 90 センチ飛び出ていました。盛土に建てた店は傾いて、使えないなと思いました。

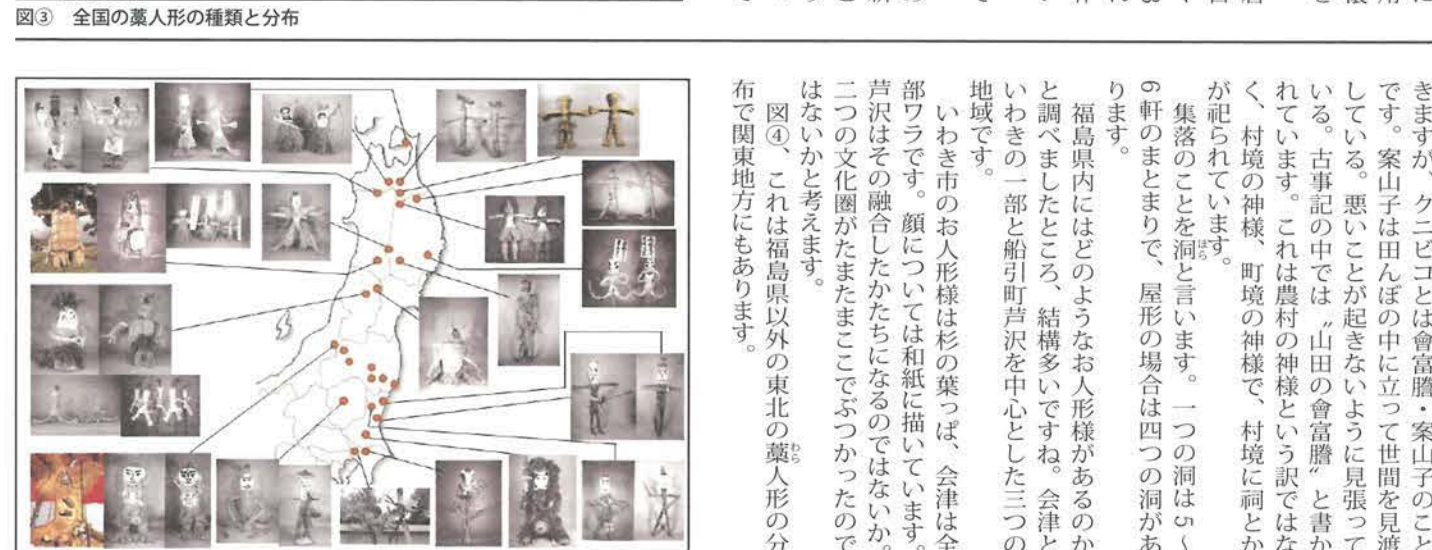
露口 ご自宅の方はどうだったのですか？

渡辺 揺れが収まって、20km 圏の 1 キロ内側の自宅に戻ると、家は何でもなかったのです。阿武隈山系は地盤が硬いのです。何の被害もありませんでした。

次の日、店の片付けに戻りますと、店の道路 (88 号線) を大熊方面から次々に途切れることなく車がやって来ます。最初、警察官が一人来て店の駐車場に車を置き、大熊方面から来る車を近くの体育館へ避難誘導していました。ですが、あまりにも車が多く、一人の警察官ではさばききれないので私も手伝いました。そのうちに大熊町の女性の商工会長さんが私の店の駐車場に入ってきました。そして、原発が危ない初めて彼女から聞いた訳です。都路には無線や有線放送での連絡はありませんでした。露口 避難指示が出たのはいつ頃だったのですか？

渡辺 「2 日の夜 8 時頃だったと言っていました。というのは、私は夕方には既に避難してました。そして商工会を移し、100 名の会員の所在確認を始め一ヶ月半ほど掛かりました。

露口 4 月 13 日に商工会の連合会でこの商工会の会長が集まって補償問題を話し合い、22 日には警戒区域・緊急時避難準備区域が指定され、の月一日には東電から賠償説明があったそうですね。



きですが、クニビコとは會富膳・案山子のことです。案山子は田んぼの中に立って世間を見渡している。悪いことが起きないように見張っている。古事記の中では「山田の會富膳」と書かれています。これは農村の神様という訳ではなく、村境の神様、町境の神様で、村境に祠とかが祀られています。

集落のことを洞と言います。一つの洞はいくつの軒のまとまりで、屋形の場合は四つの洞があります。

福島県内にはどのようなお人形様があるのかと調べましたところ、結構多いですね。会津といわきの一部と船引町芦沢を中心とした三つの地域です。

いわき市のお人形様は杉の葉っぱ、会津は全部ワラです。顔については和紙に描いています。芦沢はその融合したかたちになるのではないかと。二つの文化圏がたまたまここであつたのではないかと考えます。

図④、これは福島県以外の東北の薬人形の分布で関東地方にもあります。

写真⑧ 平成 24 年 8 月新装開店した田村市引船町の「ホットハウス」。(上) スタッフの皆さん。(左下) 自慢の「ハンバーグステーキ」。(右下) お店のエントランス、奥にはショッピングセンター「メガステージ田村」がある。

露口 (映像) いきなり美味しいものが出てきました。これはホットハウス、渡辺さんの所でいただいたランチのハンバーグです。出された途端に食べ始めましたので、途中の写真で失礼します。どの様な所でレストランをしようかしやるかといいますが、船引のメガステージ田村のショッピングモールです。ここにお店を再開されました。この近くに仮設住宅があり、全部都路の方たちが住んでいます。

渡辺 明治時代に岩井沢村と古道村が合併して都路村になりました。中央地区が古道で、そこに行政区があります。そして震災前は、この 88 号線と 188 号線のちょうど交わる所に私の店がありました。

私は昭和 25 年に生まれて、小さい頃都路村は当時貧しい地域でした。岩井沢中学校から双葉高校に行きましたが、中学の時の同級生が 100 名ちょっといました。私が高校に進学する時の進学率は 90 パーセントでした。昭和 56 年、双葉高校に進学した年に福島第一原子力発電所の建設が始まり、最盛期には 60 人くらい

渡辺 東京電力の副社長が我々にお詫びを申しあげたという事で来ました。これが最初でした。その後、田村市の災害対策本部の方、内閣府・経済産業省・農林水産省、それから松下経済産業副大臣(当時)、そして平野復興大臣(当時)等が来ました。

我々の方は、市長・副市長、各部の部長、の組合長、議長、そして商工会では私と商工会長が呼ばれ、政府と直接やり取りをしました。

露口 直接やり取りをされ、これが後に都路方式と呼ばれることになったのですか。

渡辺 ああ頃は国自体、各省バラバラでしたので、我々は窓口一本でいきます、あなた方も窓口を一つに絞ってください。我々と直接、賠償問題を話し合いました。これが始まりです。

これが多分の月頃でした。また、東京電力の方も商工会に対して賠償問題についての説明をしたと言ってきましたので、誠意があるならあなた達の社員をここに常駐させなさいと要求しました。すると上司に連絡して時間ほど決まり、後の都路多目的研修施設(旧都路ハム)に二人常駐することになりました。今も常駐しています。

露口 6月30日には商工会会員の9割が賠償の申請を終えるというスピードでしたね。

渡辺 福島県内でも我々は一番際立っていました。後に福島県商工会連合会が都路方式といいました。その後すべての商工会に波及してゆきました。

平成16年に四町村が合併して田村市になりました。それ以前に農協の合併・森林組合の合併がありました。それにより地元の団体長は支部長になり、他の地域の人が就任し、地域を代表する団体が無くなりました。唯一残ったのが商工会でした。ですから国の方も、商工会を中心とした一つの窓口と交渉するのですから、遣りやすかったと思います。

露口 震災の年6月30日に緊急時避難準備区域が解除となりました。そして20kmから30kmの住民の帰宅が可能となり、次の年の4月1日には新たに再編され、皆さんが帰り始め

ますが、実は今年11月1日にお伺いした際に都路はあまり賑わっていないようでしたが…。

渡辺 現在の都路の人口は3000人ですが、20km圏と30km圏に分断されて、20km圏内は33%、30km圏内は51%の帰還率です。20km圏内の人はまだ殆ど仮設住宅に住んでいるのが現実です。この分断は、簡単に言えばコミュニティの崩壊です。賠償金額もまったく違うのです。私の自宅は20km圏内、お店が30km圏内です。分かり易いと思います。

お店が壊れ、24年8月25日に船引に新たに店を建てました。国から3000万円の融資、県から500万円の補助を受け、残りは自己資金でした。東京電力からの賠償金は一切ありません。20km圏内は今年(2014年)4月1日に解除になりましたが、130世帯380名ぐらいの人たちには帰りたい人、帰りたいくない人がいて、様々な問題があります。

上遠野 震災から3年が経ち、学校が再開しなければ都路地区は復興しないという思いのもと、昨年、都路地区の学校再開に向けた説明会を何度も開催しました。一部の保護者から「なぜ〇〇マイクローシベルト/時に下がないのにどうして再開するのか」という意見もありましたが、大多数の人達が再開して欲しいとのことでした。今年4月1日に子ども園、小・中学校が再開となりました。多くの子供たちは避難先からスクールバスで通学しています。

渡辺 昔、都路の人たちは隣組で農作業を手伝い助け合っていました。私は商工会の中に「結」を立ち上げました。そしてその中で住民たちにアンケート調査を行いました。直接の聞き取りの中で一番多かったのは、買い物ができない、食べるところがない、ということでした。

そして買い物や食べられる場所・商業施設を作るということになりました。商工会で使える補助金がなくなったのですから昨年の9月(6日か7日)に我々「名で通産省に相談に行きました。すると先方は、自分たちが都路に行きます」ということになり、その月の28日に本省から2名来ました。本省が動くとも動きます。結局総勢20名になり、地震の被害や放射線の

為に農業が出来ず、田圃は草ぼうぼうの状態など、歩いて案内しそこから始まり、必要なものについて1月から具体的に動いて行きました。

露口(映像)これが岩井沢の「DOMO」(写真①・中段)ですね。

こちらが(同写真・中段)古道の方で、皆さんの交流が出来るようなスペースがあります。以前、渡辺さんのホットハウスがあった場所には、コンビニエンス・ストアが出来そうです。

坂上 これは参考ですが郡山と都路では、郡山の方がシールドは高いです。土地の人たちは皆知っています。マスコミはそれを話しません。

露口 渡辺さんのお店に夜伺った時に、結婚式の帰りの都路の方々がちょうど入って来られて、その中の一人が渡辺さんの肩をぽんと叩いて、「ボツとするところが無いんですよ、俺は寂しいんですよ」とおっしゃっていました。その思いは、行ってみて初めて分かりました。

今、都路にコンパクトシティ構想があるそうですが、どのようなものですか？

渡辺 都路の住生活基本構想という内容ですが、協議会が6月30日に基本構想を策定しました。この座長を務められたのが東京大学新領域創成科学研究科の出口敦先生です。

そのコンパクト街づくり構想ですが、あと3〜5年で都路には超高齢化社会が確実にきます。その時点で住民にはしっかりと選択肢があります。「都路に戻るか、船引に住むか」、また、「郡山や他の地に行くか」。そして、「都路に戻る住民がどれだけのいるのか」。

ですからコンパクト街づくりは煩悶なのです。これはすでに川内村で実証されています。村長さんが頑張って帰村宣言をされて、さまざまなインフラ整備をしました。それは、地域を3月2日以前に戻しても、住民は戻らないということを実証してしまつたのです。

露口 原発が起これなくても、現実には徐々にそうなっていくでしょうが、それが加速されたということですね。

渡辺 時計の針が20年から15年、この原発事故によって一気に進んでしまいました。

逸見 私が言いたいのは、10km圏・20km圏・30km圏とは単に円で区切っただけです。東京電力の原発事故の性です。

私たち東北人はけっしてその電力を使っている。それなのに何故、都会の人たちは福島を目の敵にするのでしょうか。私はこの事をこの場で訴えたいです。

渡辺 これが「線量計」です。私の家は20km圏内ですから必ずこれを持って計りながら帰っていました。

正直言いますと、本日、私はここに来るのを悩みました。この3ヶ月をどう皆さんに理解していただけるのだろうか…。

しかし、誰かがこの事を言い続けたいと原発事故が風化してしまいます。そうさせては絶対駄目なんです。

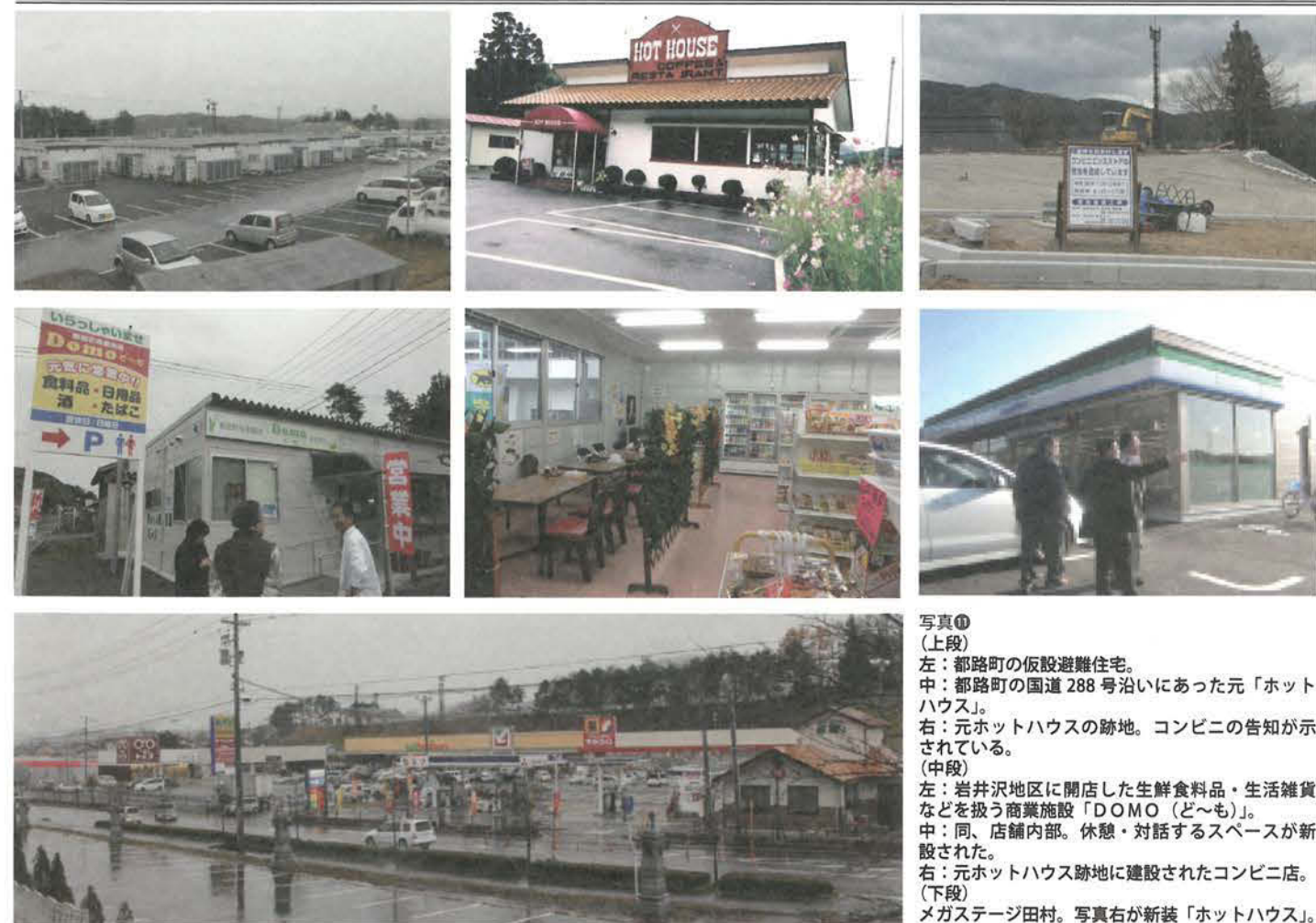
今、私は20kmに住んでいます。20km圏内の自宅に帰ってみればネズミが住んでいます。これが現実です。この状況をどういった言葉で伝えたいのか、私は分からなかったのです。ですから正直、この場に来るのをためらったというわけなんです。今日はこのような機会をつくっていただけて感謝しております。有難うございました。

坂上 皆様、有難うございました。

【完】

【座談会を終えて】第三回「田村編」田村市都路は山並み・田園風景と美しい内陸の地。地震や津波の被害こそ無い地域だが、最も難しい問題の地域のように感じた。国の決めた放射能範囲を示すコンパスラインによりこの地域は分断され、その地区間のコミュニティは壊れていった。そのライン数十メートルでも天と地ほどの開きが出る。その被害を目撃できないだけにこの放射能の恐怖は、わが国における原発を考えるうえでの一石となるのだろうか。(編集)

「田村編」かわら版」平成二十六年十一月二十八日会場…東京大学農学部・向ヶ丘アカリティハウス○テキスト・小野行雄(調・研究員)○編集担当:吉川盛一(情・文委員)○発行: AACA 情報文化部会



写真① (上段) 左: 都路町の仮設避難住宅。中: 都路町の国道 288 号沿いにあった元「ホットハウス」。右: 元ホットハウスの跡地。コンビニの告知が示されている。(中段) 左: 岩井沢地区に開店した生鮮食品・生活雑貨などを扱う商業施設「DOMO (ど〜も)」。中: 同、店舗内部。休憩・対話するスペースが新設された。右: 元ホットハウス跡地に建設されたコンビニ店。(下段) メガステージ田村。写真右が新装「ホットハウス」。

ふくしまに元気を!

レストラン ホットハウス (田村市船引町)

都路から移転して再開

図⑥ 平成 24 年 8 月 東京新聞より

【編集から】渡辺さんは、かつての都路町のレストラン店主(都路町商工会会長でもある)という個人として、「あの日から福島を語り継ぐ」(東京新聞に 26 年 2 月〜3 月まで全 17 回)この都路町の現況取材され、その日常の変化、内容を通して掲載された。そこには被害状況など身の回りの問題からストレートに現実と向き合った町民の姿があった。その情報伝達もあってか、メディアは渡辺さんをこの地区の代弁者として取り上げ、地域住民の現状を客観視し出来、状況を代弁できる人物としてみられている。

次世代のために

三地域の共通の思いは、被災地の復興は単なる再生ではなく新たな街作りのスタートと位置づけている事です。

私達は主に年中行事等文化の側面から被災地を見てきました。確かに復興のツールとしての効果はありましたが、今視点を考える時期に來たと感じています。

避難指示地域でレストラン経営をしていた都路商工会会長 渡辺氏の話は特に印象的でした。「この被災により10年早く限界集落の問題が見えた事は唯一のチャンスになり得る」と。

現在東京から一時間で行ける市町村においてさえも公共建築のコンセプトを考えると切実なテーマとして『極点社会』(※)への考慮が重要になってきているという指摘もありました。

人口問題に対処しなければ確実に20年後には1億人を創ると言われています。

多少飛躍しますが現在政治の地方創成の方向と人口減を考え合わせると、都市の人々が地方の市町村に移り住む……それも具体的にはどのような人材が必要なのか、明白です。「仕事をしたい」「子供を産みたい」「若い女性が住む事です。現在既に女性就業率が高い地域ほど、出生率が高くなっています……これは文化の問題としてではなく、先行し普遍性を有する文明↓都市化の問題と捉えた方が文化、芸術の役割が明瞭になると思うようになりました。新たな都市モデルを想定する事です。

デジタル社会の成熟、物流の高速化等今日までの都市を支えてきたインフラが大きく変わる中、崩壊が見えてきた東京の都市モデル(出生率1.09、2000年より生産年齢人口の減少/15-64歳)を断ち切り新たな都市モデルを創造する時期が訪れつつあります。新たな都市はネットワークの結び目として地方市町村が中心となる都市モデルが想定されます。好ましいコンパクトシティというテーマの置き方もあります。

今後確実に変化する方向の中でそれに資する文化、芸術を共に考える……何故なら、芸術は自由を表現する事ではあっても、そこに人を共感させる何かの秩序を築くことと同義語だからです。この秩序の創造こそ文化、芸術の面白さと役目です。

※『極点社会』人口が東京に「極」に集中し他の地域が消滅するプロセス社会

坂上 直哉/美術家(会員)

《東北三地域横断座談会に参加して》

acchp・瓦版」を語り、3日間の熱いトークを振り返り感慨を新たにしていく。取り上げられた三地域は、生活風土、被災の状況、復興への取り組みも三様である。しかし通底してあるのは「ふるさと」再来を願う想い、のみならず困難を克服して新しい地域づくりへの情熱であろう。東北でも有数の都会である石巻は「復興を機会に世界に文化発信する都市」を標榜する。久之浜は漁場の復活を悲願しつつ、帰ってきた児童！次代への教育環境づくりに精力的に取り組まれている。その久之浜地

街の歴史は、日々の暮らしの営みの蓄積である。その土地で日々の糧を得るための生業があることにより、街の歴史・個性が形成されてきたと思うが、残念ながらここ湘南の多くの街では、糧を得るために都心や横浜に通って行き、平日の街には老人と子供が残る。

どんな街にも、長い歴史の記憶があるが、それが一つ一つ消えていく状況を憂う。
加部 佳治/建築士

3.2以降「東北の文化を考える」三つの座談会を聞いて

私自身、やっぱり見た目に弱いんだな」と再認識した今回の三つの地域の座談会でした。

被災した人たちの心の問題や、放射能という外から見えない脅威、6年半が経ったこの時期に、石巻・久之浜・田村の皆様、そしてボランティアの方々の生の話をお聞きした感想です。

三つの地域と云ってもそれぞれ被災状況は異なり、抱える課題も違いますが、地域の人々の復興に対する強い意志と行動が他地域の人々の心を自然と動かし、ボランティアの方々を引き付け、一緒になって地域創造に向かっています。

是非、他者に感化されず復興をめざして、自分たちの誇れる文化・地域を守り、子供たちに継承していただきたいと思っています。

小野 行雄/日時計作家(会員)

故郷への熱い思い

三座談会共通テーマは「なぜその地に居続けたのだろうか？」だった。都会育ちで根無し草の私には、未曾有の大災害でひどい目にあった地に、なお帰りたい居続けたという思いは、正直理解できなかった。それが、少しずつ変わってきた。

特に、八幡屋の阿部さん(石巻編)、ホットハウスの渡辺さん(田村編)が熱く故郷を語るのを聞いていて、こうまで思える故郷があるのが羨ましくさえ思えてきた。お二人は地元で評判の店の主。生業だけでなく他の地でも十分にやっていたのに、彼らは居続ける。何故ならその地が故郷だから。

地域の文化はこの熱い思いの積み重ねだろう。それに触発されて、様々な表現が生まれてくる。

今回、二つの座談会の司会進行役として、参加者全員に「その地」を感じてもらったので、久之浜編では濱中さんの創作パフォーマンスを、田村編では映画『初恋』の一部を最初上演してもらった。わずか5、6分のことだったが、それぞれの地を題材にした表現(作品)は、その地の風や光や空気感を会場に運んで、参加者の理解を一気に深めてくれた。

熱く語る故郷があるから踏ん張れる。踏ん張りが地域の文化を育み醸造する。彼らの熱が伝播するような何らかの手伝いができればと、根無し草はささやかに願う。

露口 典子/文化環境プロデューサー(会員)



1 伊藤

域に寄り添い、「記憶を次代の文化へ」「まちづくりサポート・チーム」の活動には大変啓発された。田村市は原発事故のコンパスラインに分断された地域を再編すべく知恵を寄せる。さて三地域の方々のモチベーションを支えているのは？田村市「お人形様の祭り」に驚かされたように、それぞれの地域に根付いている文化力であるであろう。心に迫るドキュメンタリーであった。

七字 祐介/建築家(会員)

東北三座談会に臨んで

被災地の肉声の聞ける3回の座談会であった。3年半が過ぎ、鎮魂・心の慰めから再建・新生へと移り変わっていく中で、東京からの支援の要件、持続性そして媒介としてのアートの在り方など、いろいろな課題が浮彫りとなったように感じられた。

田村市への視察の際には、市長より当時の現状を伺った。今でも放射能除染等については、大域的に快方に向かっていくとは言い難い。福島でも市町村によって事情は異なるが、帰還困難地区では「戻りたい」との意向が縮小化する一方、「戻らない」との答えは過半を超えるという。被災地のコミュニティ再建の困難が見て取れる。その辺のアンケート・報告は建築学会の「建築雑誌」(2015年3月、2014年3月)に詳しい。一読されたい。

南三郎/建築家(会員)

街の記憶

神奈川県二宮町。東海道沿いにある1邸は、昭和二年建造の洋館付き住宅。秦野産の煙草を運ぶ軽便鉄道と東海道線の中継点として、二宮が栄えた時代の面影を遺す街道沿いの商店として、歴史的な価値を持つ。その一方で、「ガラスのうさぎ」で有名な昭和20年8月5日の二宮空襲で機銃掃射を受け、6階で犠牲者が出た弾痕が今も生々しく残り、戦災の記憶をとどめる貴重な存在である。

この住宅が近々に壊されると聞き、記録に遺すべく実測調査を行った。明治期の先代の住宅から引継いだ樫の大黒柱や、見事な一本ものの松の桁、仏間の造作丁度など、仕事の良い和館と、洋館の応接間が、昭和初期の時代性をよくとどめている一方で、調査中に朽に刺さったままであった空襲時の米軍の銃弾が見つかるなど、本来であれば登録有形文化財として、街の記憶を語り継ぐために遺すべき逸材。調査にあたり、家主や二宮町、歴史の語り部であるボランティアの方々と、使い続ける道を話し合った。しかし町の歴史を建物ごと活用維持する方策は見つからず、近くに建つ新しく巨大なコミュニティセンターが恨めしく見えた。

個性豊かな地方再生が言われる中、二宮ではまたひとつ、街の個性を表す大切な記憶が消えて行く。湘南邸園文化祭など、歴史のある邸宅や庭園を維持活用する活動も盛んだが、イベント的な活動ではなく、日々の生活の中に、街の記憶を活かしていけないものかと思う。



第1回 石巻編の様子



第3回 田村編の様子



第2回 久之浜編の様子

企画趣旨

今、
どうして東北三地域を
取り上げるのか？

平成 24 年情報文化部会では「3.11 以降～東北の文化を考える～」をテーマに、2 年にわたって石巻、田村、久之浜を訪問。平成 25 年参加者全員が記した感想を 1 冊の冊子にまとめました。震災から 3 年。現地の人々が一番恐れているのは「忘れられること」と聞きます。今ここで、3 つの地域の関係者からお話を伺い、文化の側面から東北を考える機会を持つことにしました。

内容

1. 石巻…… 2014 年 9 月 26 日 (金) 開場 17:45 (18:00-20:00) アネックス・セイホクギャラリー

石ノ森萬画館のある石巻。市街地中心は旧北上川の広大な水面です。街の人たちは、水面が見えなくなってしまうと、そこはもう自分たちの故郷ではないと言います。あの過酷な体験をしてもなお、なぜ、その想いを共有できるのでしょうか。そこまでの思いを抱かせる場所の力とはなんなのでしょうか。

- ・狩野 章 (石巻「バレエが街にやってくる」実行委員長) ・阿部紀代子 (料亭八幡家女将)
- ・黒木正郎 (石ノ森萬画館設計者) ・野口隆亮 (若手ベンチャービジネス)

2. 久之浜…… 2014 年 10 月 17 日 (金) 開場 17:45 (18:00-20:00) アネックス・セイホクギャラリー

原発 30 キロ圏の久之浜は、津波、大火事と 3 重の被災地にも関わらず「報道されない町」と言われました。この小さな海沿いの町が、復興のフロントランナーとして注目を集めています。小学校の防災緑地ワークショップ (キッズデザイン賞受賞) やまちづくりトップランナーの指定 (復興庁) などお話を伺います。

- ・松本光司 (前いわき市立久之浜第一小学校校長) ・木村謙一郎 (いわき市市議会議員、いちい水産取締役)
- ・栗田祥弘 (久之浜大久地区まちづくりサポートチーム共同代表) ・濱中峻 (同サポートチーム演劇部担当者)

3. 田村…… 2014 年 11 月 28 日 (金) 開場 17:45 (18:00-20:00) 向ヶ丘ファカルティ 2F

一見何もなかったかのように見える緑豊かな里山、田村市は、原発 20、30、40 キロ圏内のそれぞれの地域を抱えています。避難、仮設住い、除染、風評被害と声には出せない苦しみの中でも、地域の行事や祭りは淡々と行われています。住民の方にとって地域とは何なのでしょう。

- ・渡辺辰夫 (フレンチレストラン・ホットハウス経営) ・逸見克己 (日本考古学協会)
- ・上遠野伸一 (郷土写真家) ・吉野ヨシ子 (田村市夢大使)



会場

* 2 会場は東京大学農学部弥生キャンパス内にあります。
なお、①～③は座談会番号・会場の位置を示します。

① 9/26 (金)、② 10/17 (金):
東大アネックス・セイホクギャラリー Tel: 03-5841-8205



③ 11/28 (金):
東大向ヶ丘ファカルティハウス 2F
Tel: 03-5840-8495



○交通アクセス／・東京メトロ東大前駅 (南北線) 徒歩 1 分 ・東京メトロ根津駅 (千代田線) 徒歩 8 分

【参加費用】

2,000 円 (交流会費含む) 学生無料
* 当日支払いをお願いします。

【定員】 第 1・2 回: 各 40 名
第 3 回: 40 名

【時間】 座談会 18:00 ~ 20:00
(開場 17:45 ~)

交流会 20:15 ~ 21:00

【オプションツアー案内】

座談会開始前に 30 分の東大構内散策 (無料) を行います。ご希望の方は、各日の 17:00 に「東大赤門」(構内側) お集りください。



東大ツアー 2 回目 (2014.10.17)

協賛

織部製陶株式会社 菊川工業株式会社 中村ブレイス株式会社 株式会社平和合金 株式会社ベクトル
安井建築設計事務所

2015 年 12 月 15 日 発行

発行 一般社団法人 日本建築美術工芸協会
発行人 会長 岡本 賢

〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館 6 階
Tel. 03-3457-7998 Fax. 03-3457-1598
URL <http://www.aacajp.com>
E-mail info@aacajp.com

編集

調査研究委員会 情報文化部会
坂上直哉 (部会長) 露口典子 (副部会長)
高橋圭太郎 立松直樹 中川一人 中島三枝子 中村仁美
藤田益一 吉川盛一 (デザイン制作) 吉野ヨシ子

